

# 尼崎市のまちづくりについての 市民アンケート等調査結果

令和 4 年 11 月

# 目次

---

<b>1. 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
<b>2. 調査の内容</b> .....	<b>3</b>
<b>3. 調査結果の総括</b> .....	<b>4</b>
(1) 市民アンケート .....	4
(2) 事業者アンケート .....	5
(3) 市外からの通勤者向けアンケート .....	6
(4) 大学生向けアンケート .....	6
<b>4. 主な調査結果</b> .....	<b>8</b>
(1) 市民アンケート .....	8
(2) 事業者アンケート .....	24
(3) 市外からの通勤者向けアンケート .....	40
(4) 大学生向けアンケート .....	43
<b>参考. 調査票・調査項目</b> .....	<b>49</b>
(1) 市民アンケート調査 調査票 .....	49
(2) 事業者アンケート調査 調査票 .....	55
(3) 市外からの通勤者向けアンケート調査項目 .....	61
(4) 大学生向けアンケート調査項目 .....	62
<b>資料. アンケート集計結果一覧</b> .....	<b>63</b>
(1) 市民アンケート調査 .....	63
(2) 事業者アンケート調査 .....	78
(3) 市外からの通勤者向けアンケート調査 .....	88
(4) 大学生向けアンケート調査 .....	93

# 1. 調査の概要

## ① 目的

これまで推進してきた尼崎市のまちづくりについての認知度や今後取り組むべき施策等について、市民・事業者の意見を把握するとともに、市外からの通勤者や大学生など、市外居住者や若い世代が持つ尼崎の印象や今後取り組むべき施策等について意見を把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

## ② 調査概要

### 1) 市民アンケート

- ・調査対象：18歳以上の尼崎市民 ※ 年齢・地域を考慮した無作為抽出
- ・標本数：2,000票（到達1,976票、不達24票）
- ・調査方法：配布（郵送）、回収（郵送回収 又は WEB 回答）
- ・回収期間：令和4年7月上旬～9月末 ※ 9月に督促を1回実施
- ・回収数：492票（紙-273票（55.5%）、WEB-219票（44.5%））
- ・回収率：24.6%

#### 【年齢別の回収状況】

	回収数	割合
10～20歳代	68	13.8%
30歳代	66	13.4%
40歳代	103	21.0%
50歳代	70	14.2%
60歳代	65	13.2%
70歳代	120	24.4%
全体	492	100%

#### 【地域別の回収状況】

	回収数	割合
阪急沿線地域	260	52.8%
JR沿線地域	143	29.1%
阪神沿線地域	89	18.1%
全体	492	100%



## 2) 事業者アンケート

- ・調査対象：尼崎市に立地する事業所（工業・商業）
- ・標本数：1,000 票（到達 992 票、不達 8 票）
- ・調査方法：配布（郵送）、回収（郵送回収 又は WEB 回答）
- ・回収期間：令和 4 年 7 月上旬～9 月末 ※ 8 月に関係団体へ協力を依頼
- ・回収数：248 票（紙-191 票（77.0%）、WEB-57 票（23.0%））
- ・回収率：24.8%

## 3) 市外からの通勤者向けアンケート

- ・調査対象：尼崎市の事業所に市外から通勤されている従業員の方々  
（ 2) の事業者アンケートで、市外からの通勤者アンケートに協力していただけると回答した事業者  
及び関係団体等を通じて協力を依頼した事業者）
- ・調査方法：WEB 回答
- ・回収期間：令和 4 年 8 月下旬～10 月 14 日（金）
- ・回収数：215 票

## 4) 大学生向けアンケート

- ・調査対象：以下の大学に通学されている学生  
（ 関西国際大学（尼崎キャンパス）、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、  
武庫川女子大学、武庫川女子大学短期大学部、産業技術短期大学）
- ・調査方法：WEB 回答
- ・回収期間：令和 4 年 8 月下旬～10 月 14 日（金）
- ・回収数：290 票

注：グラフ・表の構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない

## 2. 調査の内容

### 1) 市民アンケート

- 回答者の属性（居住地、年齢、職業、通勤状況、家族の状況等）
- 尼崎のまちづくりについて
  - ・計画や取組の認知度
  - ・地域の現状の満足度と優先して取り組むべき項目
  - ・尼崎市の都市のイメージ、どんな都市になってほしいか
  - ・日常生活の移動手段
  - ・災害リスクの認知度、防災・減災まちづくりに必要なこと
  - ・地域のまちづくりへの関心、参加意向など

### 2) 事業者アンケート

- 事業所の状況（所在地、業種、従業員数、開業年、用途地域等）
- 尼崎のまちづくりについて
  - ・計画や取組の認知度
  - ・地域の現状の満足度と優先して取り組むべき項目
  - ・尼崎市の都市のイメージ、どんな都市になってほしいか
  - ・災害リスクの認知度、防災・減災まちづくりに必要なこと
  - ・事業所を営むにあたっての問題、今後の事業意向等
  - ・まちづくりへの協力・貢献
  - ・市外からの通勤者向けアンケートへの協力意向

### 3) 市外からの通勤者向けアンケート

- 回答者の属性（居住地、年齢、家族の状況、勤続年数、通勤手段 等）
- 市外在住者から見た尼崎のまちの課題・魅力
  - ・尼崎市の魅力、まちの課題、まちづくりに関する満足度
  - ・尼崎市での今後の居留意向、尼崎市で居住するために必要なもの

### 4) 大学生向けアンケート

- 回答者の属性（通学先大学、学年、居住地、出身、通学手段 等）
- 若者から見た尼崎のまちの課題・魅力
  - ・尼崎市の魅力、まちづくりに関する満足度
  - ・尼崎市での今後の居留意向、尼崎市で居住するため・住み続けるために必要なもの

### 3. 調査結果の総括

#### (1) 市民アンケート

##### 1) 都市計画マスタープランの認知度

都市計画マスタープランについては、「計画があることを知らなかった（今回初めて知った）」と「計画があることを知っているが、見たことはない」との回答が90%以上を占めており、ほとんど市民に認知されていない。

都市計画マスタープランの効果的な周知方法については、「市の広報誌に掲載」が最も多く、次いで「動画配信やSNS」が2番目に多く、多様な手段による情報発信が求められている。

##### 2) 分野別まちづくりの認知度

都市交通分野のまちづくり（自転車専用レーンや駐輪場の整備等）は、「知っている」が半数以上を占めており、「駅や商業施設などに駐輪場が十分にある」の現状の満足度は前回調査（平成24年）と比較して大きく向上している。また、都市防災分野のまちづくり（地域防災マップづくりや防災訓練の支援等）は、「知っている」が約40%占めている。一方で、その他の分野のまちづくりについては「知らない」が約80%で、大半の市民に認知されていない。

##### 3) 現状の満足度と今後優先して取り組むべき事柄

現状の満足度は、「食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ」、「近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ」など、日常生活の利便性に関する項目が高い。一方で、「美しい建築物や道路による良好な景観がある」の満足度は低い。阪神沿線地域では「騒音、悪臭、振動が少ない生活環境の良さ」の満足度が他の地域に比べて著しく低い。

今後優先して取り組むべき事柄は、「騒音、悪臭、振動が少ない生活環境の良さ」が最も多く、「歩道や横断歩道の整備などによる歩行者の歩きやすさ」が2番目で、歩いて暮らせる良好なまちづくりが求められている。

##### 4) 市民が持つ尼崎市のイメージと今後どのようなまちになってほしいか

市民が持つ尼崎市のイメージについては「大阪都市圏の住宅都市」、「阪神間を代表する工業都市」に2分されているが、前回調査と比べ、工業都市のイメージは減少、住宅都市のイメージが強くなってきている。

それを反映して、尼崎市が今後どのようなまちになってほしいかについては、「ゆとりある良好な住環境のまち」、「買い物など日常生活をしやすいまち」が特に多く、身近な暮らしや住環境の向上が求められている。

##### 5) 防災・減災について

防災・減災に必要な取組として、「水害対策」が最も求められている。また「建物の耐震化等、地震への備え」、「避難路、輸送路の確保」、「復興の事前準備」などについても高い関心が寄せられている。

## 6) 地域のまちづくりについて

地域のまちづくりについては、約 40%が「地域のイベントへの参加」や「アンケート・意見募集への協力」、「環境美化活動・緑化活動への参加」などの方法により「機会・時間があれば参加したい」としており、地域まちづくりへの市民の関心は高く、地域のまちづくりを推進していくことが求められている。

## (2) 事業者アンケート

### 1) 都市計画マスタープランの認知度

都市計画マスタープランについては、「計画があることを知らなかった（今回初めて知った）」と「計画があることを知っているが、見たことはない」との回答が 90%以上を占めており、ほとんど事業者に認知されていない。

都市計画マスタープランの効果的な周知方法については、「市の広報誌に掲載」が最も多く、次いで「動画配信や SNS」が 2 番目に多く、多様な手段による情報発信が求められている。

### 2) 分野別まちづくりの認知度

都市交通分野のまちづくり（自転車専用レーンや駐輪場の整備等）と都市防災分野のまちづくり（地域防災マップづくりや防災訓練の支援等）については、「知っている」が半数以上を占めているが、その他の分野のまちづくりについては「知らない」が約 80%で、大半の事業者に認知されていない。

### 3) 現状の満足度と今後優先して取り組むべき事柄

現状の満足度は、「食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ」、「近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ」など、日常生活の利便性に関する項目が高い。一方で、「美しい建築物や道路による良好な景観がある」「緑豊かで憩いやすくなる場所がある」の満足度は低い。地域別で見ると、JR 沿線地域については、「バスやタクシー乗り場の整備、駐車場・駐輪場の充実等の駅周辺の利便性」の満足度が高い。一方、臨海地域については、「日常生活のための商店や公共施設・公園の使いやすさ」の満足度が低く、事業を営むに当たって問題と感じているところとしても「コンビニ等の利便施設の不足」の割合が高い。

今後優先して取り組むべき事柄は、「近くに避難施設があるなど災害時の逃げやすさ」「道が広いなど地震や火災に対する強さ」といった災害時の備えと、「歩道や横断歩道の整備などによる歩行者の歩きやすさ」「道路が整備され自転車が走りやすい」といった交通環境の向上に関する割合が高い。

### 4) 事業者が持つ尼崎市のイメージと今後どのようなまちになってほしいか

事業者が持つ尼崎市のイメージについては「阪神間を代表する工業都市」、「大阪都市圏の住宅都市」が特に多く、大都市近郊の工業都市・住宅都市として認知されている。

また、尼崎市が今後どのようなまちになってほしいかについては、「ゆとりある良好な住環境のまち」、「住宅と商店、住宅と工場が共存するまち」が特に多く、臨海地域では、人が集まり交流するにぎわいのあるまちづくりが求められている。

## 5) 災害リスクの認知度

事業者の災害リスクの認知度については市の南北で地域差が見られる。特に南部の臨海地域で災害リスクの認知度が高く、70%以上の事業者がハザードマップを確認し災害リスクを把握している。

## 6) 事業を営む上での問題点

臨海地域では「駐車スペースの不足」、「幹線道路の渋滞や道路の道幅が狭いなどの交通上不便」などの交通に関する問題点が、事業を営む上での問題点となっている。また、南部地域（阪神沿線、臨海）は北部・中部地域（阪急沿線、JR 沿線）に比べ「コンビニ等の利便施設の不足」、「空き店舗、倉庫の増加による商業地としての魅力の低減」などの商業機能の弱さ・衰退が、事業を営む上での問題点となっている。

## (3) 市外からの通勤者向けアンケート

### 1) 尼崎市の魅力と課題

尼崎市の魅力は、「大都市に近くアクセスがよい」、「鉄道やバスなど移動が便利」、「昔ながらの商店街がある」の割合が特に高く、市外からの通勤者から見た尼崎市の魅力は、交通利便性の高さと昔ながらの下町の良さであると言える。

一方、尼崎市の課題は、「魅力的な空間が不足している」、「住宅地としてのイメージが良くない（治安が悪いイメージ）」の割合が特に多く、魅力的な空間の整備やまちのイメージアップが求められている。

### 2) 現状の満足度

尼崎市の現状の満足度は、「通勤や買い物の利便性」が高い。一方で、「治安やマナー」の満足度が低い。

### 3) 今後の居留意向と住んでみたいと思うために必要な事柄

今後の居留意向については、「住みたくない」「あまり住みたくない」が 80%近くを占めており、大半は居留意向がない。今後住んでみたいと思うために必要な事柄については、「手頃な価格の住宅」が最も多い。

## (4) 大学生向けアンケート

### 1) 尼崎市の魅力

尼崎市の魅力は、「大都市に近くアクセスがよい」、「鉄道やバスなど移動が便利」、「大型ショッピングセンターがある」の割合が高く、大学生から見た尼崎市の魅力は、交通利便性の高さと大型商業施設の存在であると言える。

### 2) 現状の満足度

尼崎市の現状の満足度は、「通学や買い物の利便性」が高い。一方で、「治安やマナー」の満足度が低い。

### 3) 今後の居住意向と住んでみたい・住み続けたいと思うために必要な事柄

今後の居住意向については、「住みたくない」、「あまり住みたくない」が60%近くを占めている。市外からの通学者の約70%は居住意向がないのに対して、市内からの通学者で居住意向がないのは30%程度にとどまっており、市内居住であるかどうかにより差が見られた。

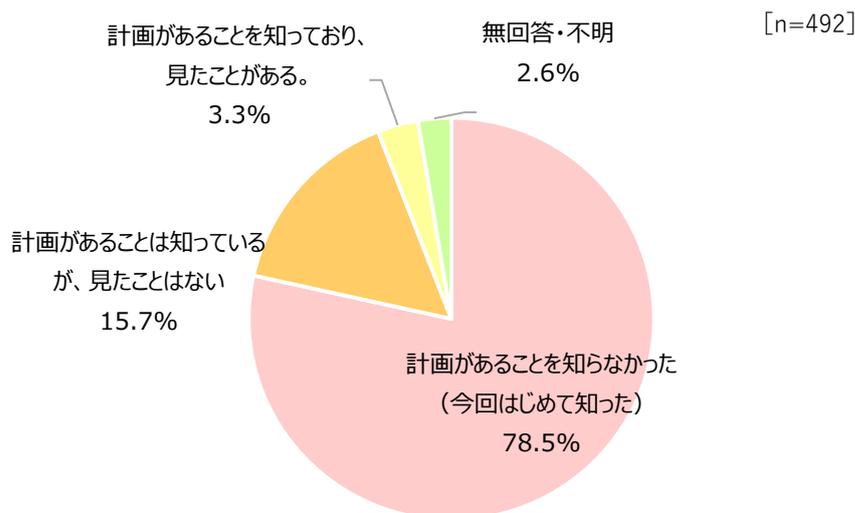
居住意向がある人が住み続けたいと思うために必要な事柄については、「商業施設の充実」、「働くための機会・場所の充実」、「手頃な価格の住宅」の割合が特に高く、居住意向がない人が住んでみたいと思うために必要な事柄については、「魅力的な空間・にぎわい空間」の割合が特に高く、生活利便性の向上に加えて魅力的な空間や場所が求められている。

## 4. 主な調査結果

### (1) 市民アンケート

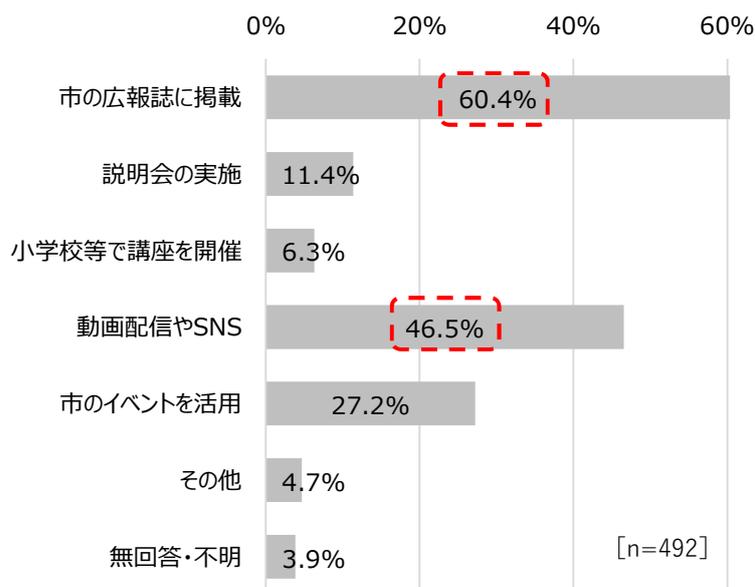
#### ① 現行（平成 26 年版）都市計画マスタープランの認知度 [単一回答]

現行（平成 26 年版）都市計画マスタープランの認知度については、「計画があることを知らなかった（今回はじめて知った）」が 78.5%と大半を占めている。「計画があることを知っているが、見たことはない」を含め約 94%が計画を見たことがなく、計画の内容はほとんど市民に認知されていないものと考えられる。



#### ② 都市計画マスタープランの効果的な周知方法 [複数回答]

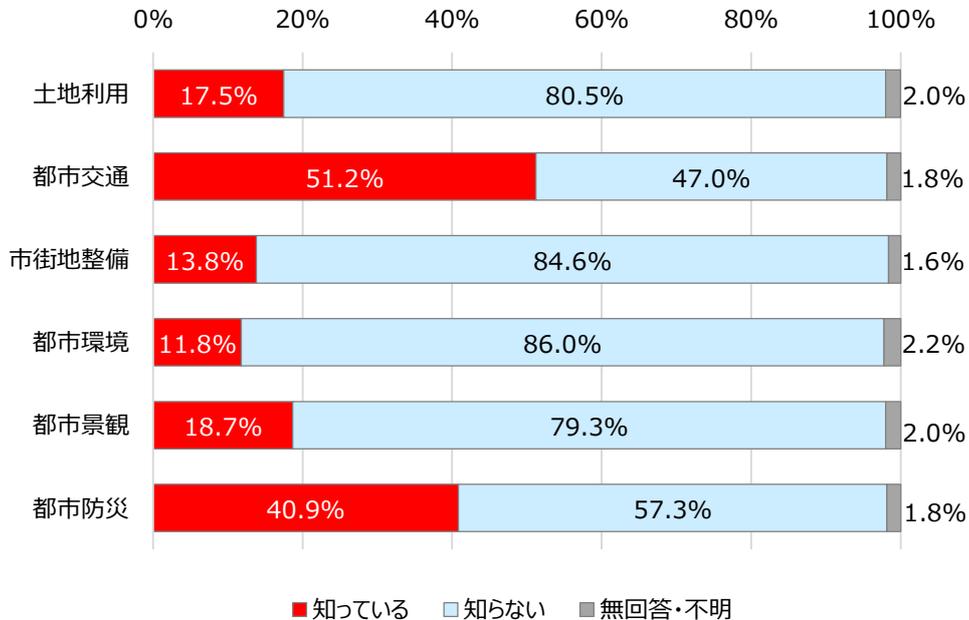
都市計画マスタープランの効果的な周知方法については、「市の広報誌に掲載」が 60.4%と最も高く、次いで「動画配信や SNS」が 46.5%を占めている。



### ③-1 尼崎市の分野別のまちづくりの取組を知っているか [単一回答]

尼崎市の分野別のまちづくりの取組について、知っている割合が高かったのは【都市交通】と【都市防災】の分野で「知っている」がそれぞれ51.2%、40.9%であった。一方、【土地利用】、【市街地整備】、【都市環境】、【都市景観】の分野については、いずれも「知らない」が約80%を占めている。

[n=492]

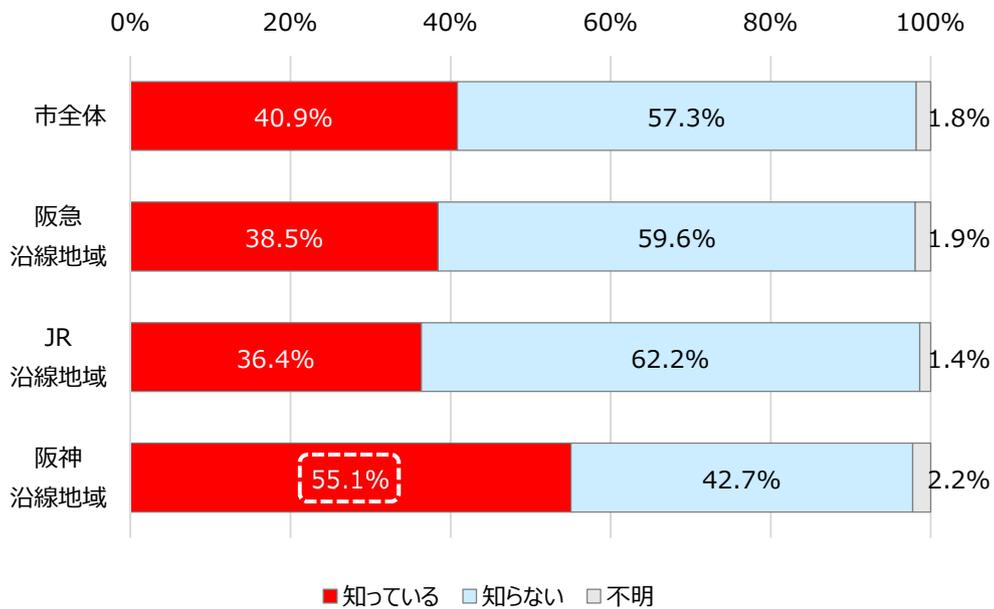


分野	代表的な取組内容
土地利用	【利便性が高く魅力と活力ある都市空間を創出する取組】 ・公共施設再編を通して、子どもたちの健やかな成長を目指していく拠点「あまがさき・ひと咲きプラザ」が令和元年から本格的に始動していること
都市交通	【誰もが安全で快適に移動できる交通空間形成に向けた取組】 ・自転車での快適な移動を推進するために、自転車専用レーンや駐輪場、コミュニティーサイクルを整備していること
市街地整備	【安心して生活できる安全で魅力ある市街地整備の取組】 ・老朽危険空家の解消や空き家の利活用、流通の促進に向けて様々な取組を行っていること
都市環境	【持続可能な社会に向けた循環型・低炭素まちづくりの取組】 ・地球温暖化やごみ減量に向け、児童一人ひとりが自分で考え、行動するために、小学生の授業で活用できる環境教育プログラムを実施していること
都市景観	【誇りと愛着と活力のある美しいまちをめざす取組】 ・美しいまちの景観に貢献する建物や活動を「まちかどチャーミング賞」として表彰していること
都市防災	【被害を最小限に抑える災害に強いまちづくりの取組】 ・地域の自主防災会が実施する地域防災マップづくりや防災訓練等を支援していること

### ③-2 都市防災の主な取組を知っているか×地域区分 [単一回答]

都市防災の主な取組（地域の自主防災会が実施する地域防災マップづくりや防災訓練等を支援していること）を知っているかについて地域区分別で比較すると、阪神沿線地域では「知っている」が55.1%で市全体の水準より約14ポイント高い。

単一回答	阪急沿線地域		JR沿線地域		阪神沿線地域		市全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
1 知ってる	100	38.5	52	36.4	49	55.1	201	40.9
2 知らない	155	59.6	89	62.2	38	42.7	282	57.3
3 無回答・不明	5	1.9	2	1.4	2	2.2	9	1.8
合計	260	100.0	143	100.0	89	100.0	492	100.0



#### ④-1 現状の尼崎の満足度 [単一回答]

現状の尼崎の満足度について評点を見ると、「①食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ」が1.13ポイント、「②近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ」が1.10ポイントであり、住みやすさに関する項目での満足度が高いといえる。

一方、「⑫美しい建築物や道路による良好な景観がある」が-0.16ポイントであり、ゆとり・うるおいに関する項目の満足度が低い。

項目	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	無回答・不明	合計	評点	前回調査評点	
	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)		[H24]	
住みやすさ	①食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ	217	168	49	35	12	11	492	1.13	0.97
	②近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ	190	188	80	23	5	6	492	1.10	0.70
	③日頃利用する公園の使いやすさ	102	134	201	31	14	10	492	0.58	0.24
	④日当たりなど生活環境の良さ	166	168	99	40	12	7	492	0.90	0.56
	⑤騒音、悪臭、振動が少ない生活環境の良さ	82	143	146	83	30	8	492	0.34	-0.12
安全性	⑥近くに避難施設があるなど、災害時の逃げやすさ	87	158	190	42	8	7	492	0.56	0.10
	⑦道が広いなど、地震や火災に対する強さ	57	116	211	73	21	14	492	0.24	-0.10
	⑧歩道や横断歩道の整備などによる歩行者の歩きやすさ	60	129	179	87	28	9	492	0.22	-0.23
交通	⑨道路が整備され自転車が走りやすい	50	119	155	134	26	8	492	0.07	-0.38
	⑩幹線道路などが整備され、車両が移動しやすい	69	153	190	54	10	16	492	0.46	0.30
	⑪電車やバスの便などの公共交通が使いやすい	148	182	91	52	12	7	492	0.83	0.53
ゆとり・うるおい	⑫美しい建築物や道路による良好な景観がある	22	79	218	129	35	9	492	-0.16	-0.41
	⑬緑豊かで憩いづつるげ場所がある	40	143	172	98	31	8	492	0.13	-0.11
	⑭河川・水路などの水に親しめる場所がある	44	120	166	112	42	8	492	0.02	-0.21
最寄りの駅について	⑮バスやタクシーの乗場などが整備されている	124	191	115	38	16	8	492	0.76	0.58
	⑯駅周辺に娯楽施設や商業施設などが十分にある	90	151	124	90	27	10	492	0.39	0.20
	⑰駅や商業施設などに駐輪場が十分にある	75	176	130	76	27	8	492	0.40	-0.31
	⑱駅周辺の商業施設などに駐車場が十分にある	42	131	176	108	23	12	492	0.13	-0.28

[評点について]

- ・満足:2点、やや満足:1点、どちらでもない:0点、やや不満:-1点、不満:-2点とした加重平均(※)の値
- ・基準点は0点であり、値が正の場合、満足の方が多いいえる。無回答・不明は算出から除外。

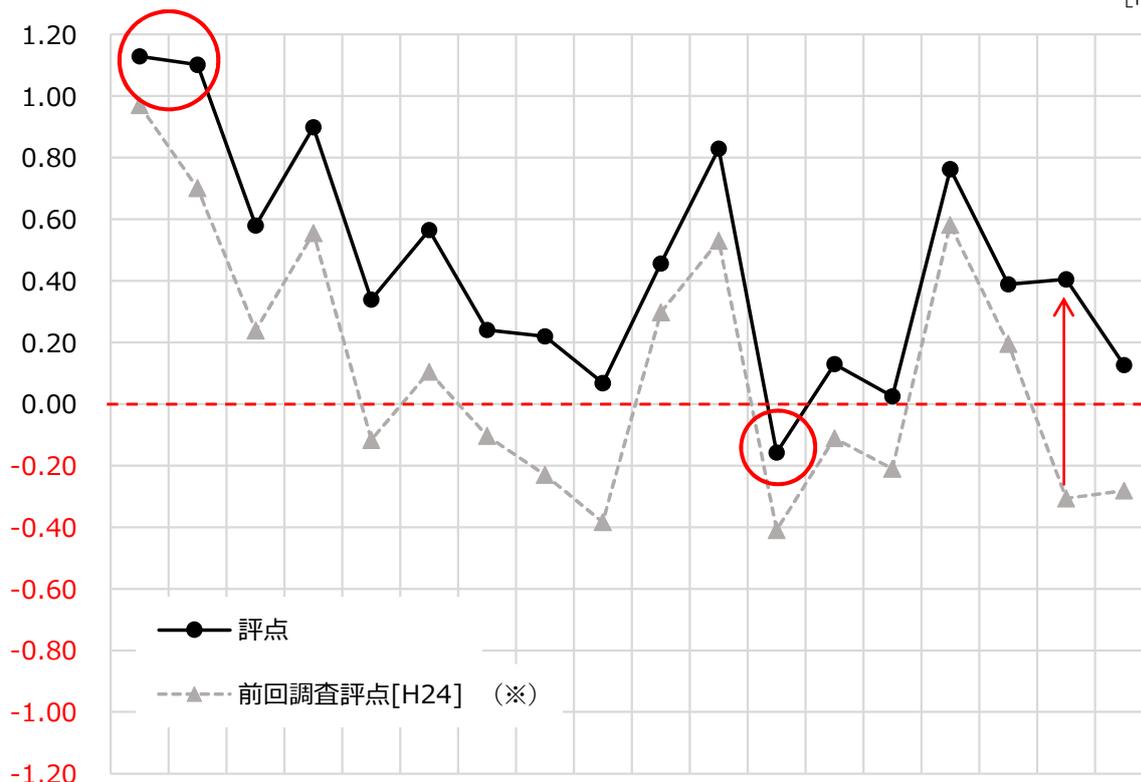
※【算出例】(①食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ)

満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	無回答・不明	合計
217件	168件	49件	35件	12件	11件	492件

$$\left[ \frac{2 \text{点} \times 217 \text{件} + 1 \text{点} \times 168 \text{件} + 0 \text{点} \times 49 \text{件} + (-1 \text{点}) \times 35 \text{件} + (-2 \text{点}) \times 12 \text{件}}{492 \text{件} [\text{合計}] - 11 \text{件} [\text{無回答・不明}]} = 0.97 \right]$$

【現在の尼崎市の満足度-評点】

[n=492]



- ① 食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ
- ② 近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ
- ③ 日頃利用する公園の使いやすさ
- ④ 日当たりなど生活環境の良さ
- ⑤ 騒音、悪臭、振動が少ない生活環境の良さ
- ⑥ 近くに避難施設があるなど、災害時の逃げやすさ
- ⑦ 道が広いなど、地震や火災に対する強さ
- ⑧ 歩道や横断歩道の整備などによる歩行者の歩きやすさ
- ⑨ 道路が整備され自転車が行きやすい
- ⑩ 幹線道路などが整備され、車両が移動しやすい
- ⑪ 電車やバスの便などの公共交通が使いやすい
- ⑫ 美しい建築物や道路による良好な景観がある
- ⑬ 緑豊かで憩いやすくなる場所がある
- ⑭ 河川・水路などの水に親しめる場所がある
- ⑮ バスやタクシーの乗場などが整備されている
- ⑯ 駅周辺に娯楽施設や商業施設などが十分にある
- ⑰ 駅や商業施設などに駐輪場が十分にある
- ⑱ 駅周辺の商業施設などに駐車場が十分にある

※現行計画策定に当たっても、同じ項目でアンケートを実施している。(平成 24 年)

前回調査と比較すると、評点の傾向はおおむね同じであるが、全体として評点は上がっている。特に⑰は-0.31 から+0.40 と大きく評点が上がっている。

#### ④-2 現状の尼崎の満足度×地域区分 [単一回答]

現状の尼崎の満足度について地域区分別に比較すると、「⑤騒音、悪臭、振動が少ない生活環境の良さ」の項目では、阪神沿線地域が-0.15であり、特に評点が低い。また、「⑭河川・水路などの水に親しめる場所がある」の項目では、JR沿線地域が-0.31であり、市全体の評点と比較しても約0.3ポイント低い。

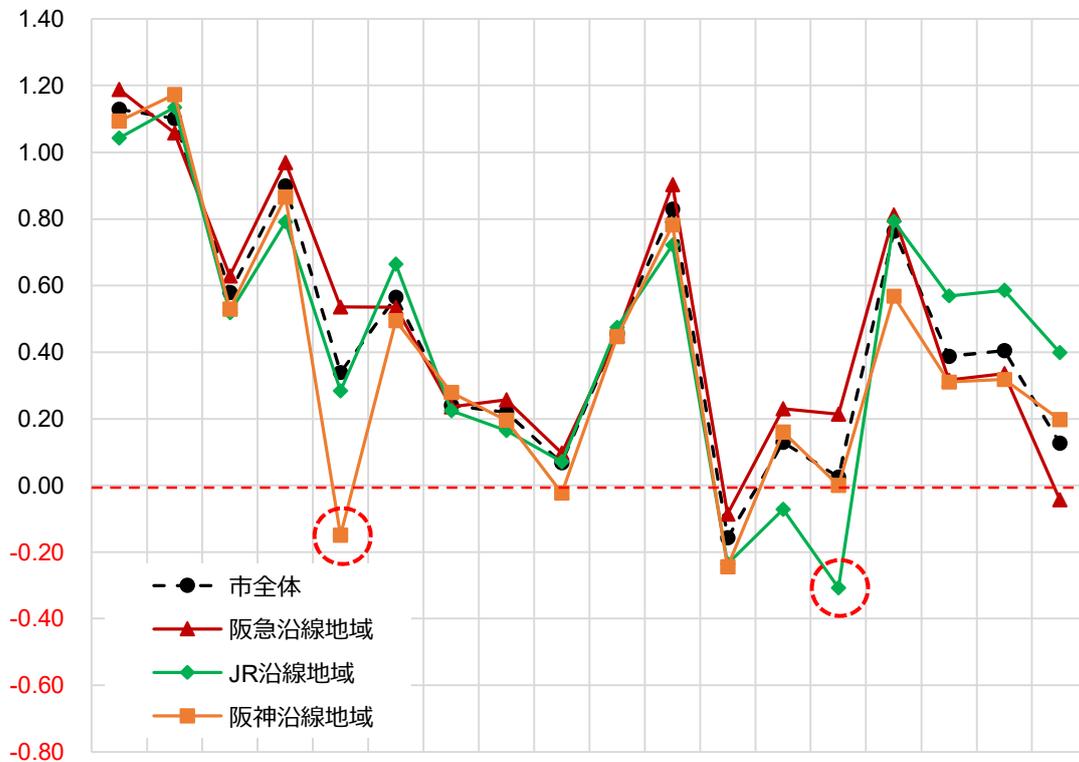
項目		阪急 沿線地域	JR 沿線地域	阪神 沿線地域	市全体
住みやすさ	① 食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ	<b>1.19</b>	1.04	1.09	<b>1.13</b>
	② 近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ	1.06	<b>1.13</b>	<b>1.17</b>	1.10
	③ 日頃利用する公園の使いやすさ	0.63	0.52	0.53	0.58
	④ 日当たりなど生活環境の良さ	0.97	0.79	0.87	0.90
	⑤ 騒音、悪臭、振動が少ない生活環境の良さ	0.54	0.28	<b>-0.15</b>	0.34
安全性	⑥ 近くに避難施設があるなど、災害時の逃げやすさ	0.53	0.66	0.49	0.56
	⑦ 道が広いなど、地震や火災に対する強さ	0.24	0.22	0.28	0.24
	⑧ 歩道や横断歩道の整備などによる歩行者の歩きやすさ	0.26	0.17	0.20	0.22
交通	⑨ 道路が整備され自転車が走りやすい	0.10	0.07	<b>-0.02</b>	0.07
	⑩ 幹線道路などが整備され、車両の移動しやすい	0.45	0.47	0.45	0.46
	⑪ 電車やバスの便などの公共交通が使いやすい	0.90	0.72	0.78	0.83
ゆとり・うるおい	⑫ 美しい建築物や道路による良好な景観がある	<b>-0.09</b>	<b>-0.24</b>	<b>-0.24</b>	<b>-0.16</b>
	⑬ 緑豊かで憩いつづげる場所がある	0.23	<b>-0.07</b>	0.16	0.13
	⑭ 河川・水路などの水に親しめる場所がある	0.21	<b>-0.31</b>	0.00	0.02
最寄り駅について	⑮ バスやタクシーの乗場などが整備されている	0.81	0.79	0.57	0.76
	⑯ 駅周辺に娯楽施設や商業施設などが十分にある	0.32	0.57	0.31	0.39
	⑰ 駅や商業施設などに駐輪場が十分にある	0.34	0.59	0.32	0.40
	⑱ 駅周辺の商業施設などに駐車場が十分にある	<b>-0.04</b>	0.40	0.20	0.13

※地域区分ごと及び市全体における評点の最大値を**太字**で表記。

[評点について]

- ・満足：2点、やや満足：1点、どちらでもない：0点、やや不満：-1点、不満：-2点とした加重平均の値
- ・基準点は0点であり、値が正の場合、満足の方が多いといえる。無回答・不明は算出から除外。

【尼崎市の現状についての満足度×地域区分】

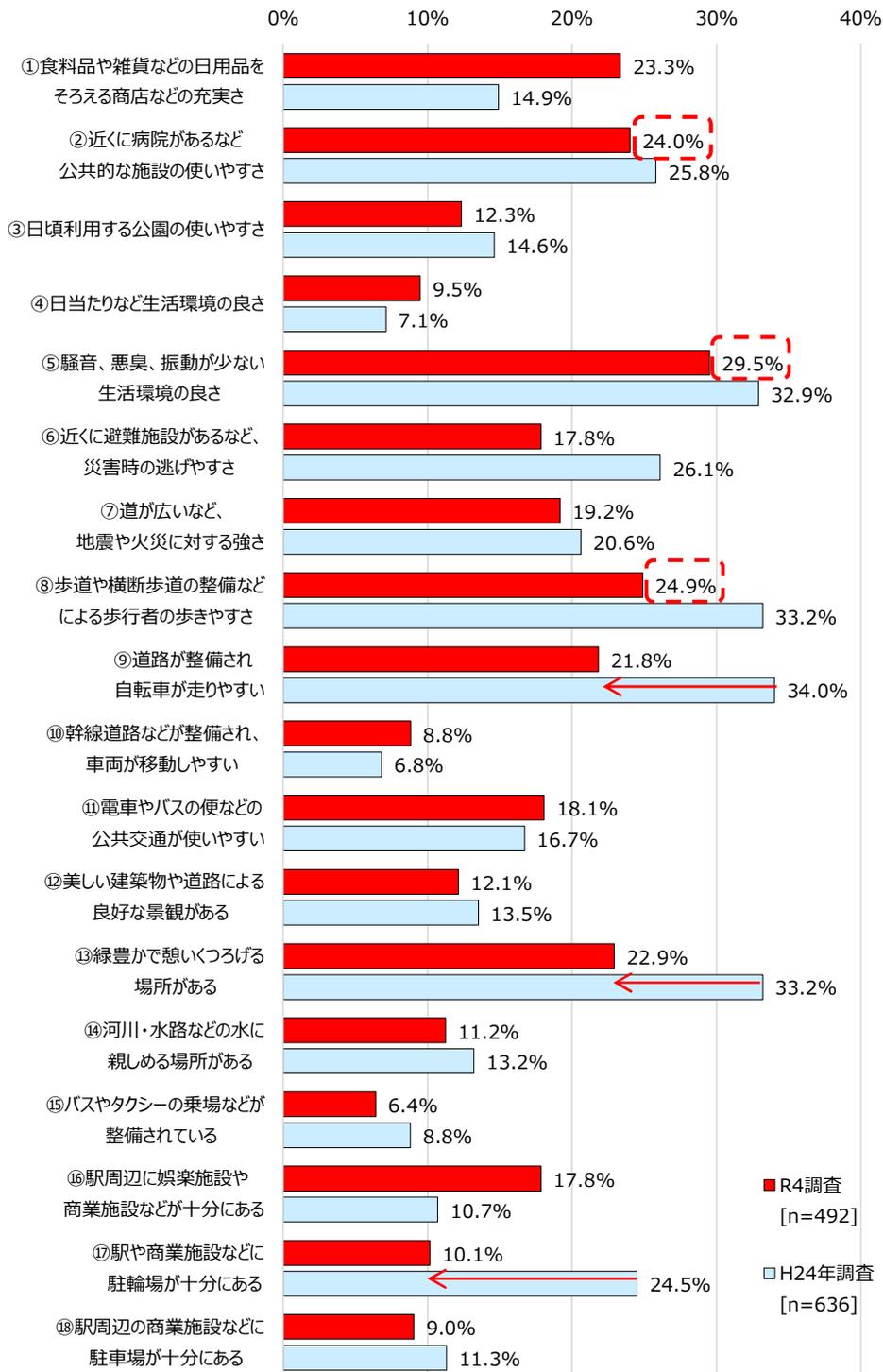


- ① 食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ
- ② 近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ
- ③ 日頃利用する公園の使いやすさ
- ④ 日当たりなど生活環境の良さ
- ⑤ 騒音、悪臭、振動が少ない生活環境の良さ
- ⑥ 近くに避難施設があるなど、災害時の逃げやすさ
- ⑦ 道が広いなど、地震や火災に対する強さ
- ⑧ 歩道や横断歩道の整備などによる歩行者の歩きやすさ
- ⑨ 道路が整備され自転車走りやすい
- ⑩ 幹線道路などが整備され、車両の移動しやすい
- ⑪ 電車やバスの便などの公共交通が使いやすい
- ⑫ 美しい建築物や道路による良好な景観がある
- ⑬ 緑豊かで憩い、つろげる場所がある
- ⑭ 河川・水路などの水に親しめる場所がある
- ⑮ バスやタクシーの乗場などが整備されている
- ⑯ 駅周辺に娯楽施設や商業施設などが十分にある
- ⑰ 駅や商業施設などに駐輪場が十分にある
- ⑱ 駅周辺の商業施設などに駐車場が十分にある

### ⑤-1 今後のまちづくりについて市が優先して取り組むべき項目 [複数回答]

今後のまちづくりについて市が優先して取り組むべき項目については、「⑤騒音、悪臭、振動が少ない生活環境の良さ」が29.5%と最も高く、次いで「⑧歩道や横断歩道の整備などによる歩行者の歩きやすさ」が24.9%、「②近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ」が24.0%の順に高くなっている。

また、前回調査（平成24年）と比較すると、「①⑦駅周辺の商業施設などに駐車場が十分にある」、「⑨道路が整備され自転車が走りやすい」、「⑬緑豊かで憩いやすくなる場所がある」などの項目で10ポイント以上回答率が下がっている。特に①⑦や⑨は、(1)④-1で満足度が大きく上昇した項目であり、市の取組が評価された結果と考えられる。

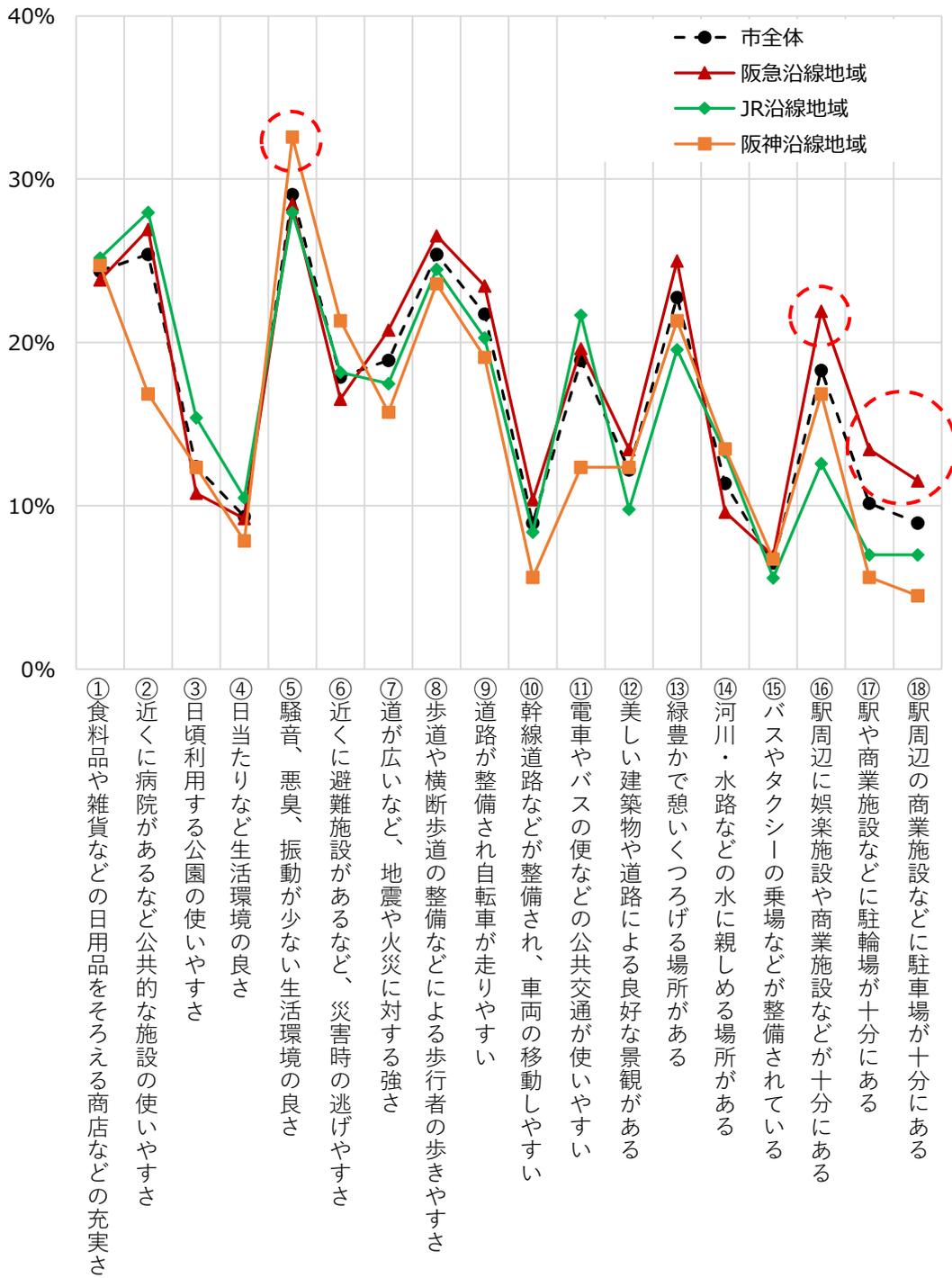


⑤-2 市がまちづくりで優先すべき項目×地域区分〔複数回答〕

市がまちづくりで優先すべき項目について地域区分別で比較すると、阪神沿線地域では「⑤騒音、悪臭、振動が少ない生活環境の良さ」が32.6%で全体と比較してやや高い。また、阪急沿線地域では、「⑩駅前周辺に娯楽施設や商業施設などが十分にある」が21.9%、「⑪駅や商業施設などに駐輪場が十分にある」が13.5%、「⑫駅周辺の商業施設などに駐車場が十分にある」が8.9%でいずれも全体の水準より高く、駅周辺の整備・利便性向上の優先度がより高いといえる。

項目		阪急沿線地域 [n=260]		JR沿線地域 [n=143]		阪神沿線地域 [n=89]		市全体 [n=492]	
		件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
住みやすさ	① 食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ	62	23.8	36	25.2	22	24.7	120	24.4
	② 近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ	70	26.9	40	28.0	15	16.9	125	25.4
	③ 日頃利用する公園の使いやすさ	28	10.8	22	15.4	11	12.4	61	12.4
	④ 日当たりなど生活環境の良さ	24	9.2	15	10.5	7	7.9	46	9.3
	⑤ 騒音、悪臭、振動が少ない生活環境の良さ	74	28.5	40	28.0	29	32.6	143	29.1
安全性	⑥ 近くに避難施設があるなど、災害時の逃げやすさ	43	16.5	26	18.2	19	21.3	88	17.9
	⑦ 道が広いなど、地震や火災に対する強さ	54	20.8	25	17.5	14	15.7	93	18.9
	⑧ 歩道や横断歩道の整備などによる歩行者の歩きやすさ	69	26.5	35	24.5	21	23.6	125	25.4
交通	⑨ 道路が整備され自転車が走りやすい	61	23.5	29	20.3	17	19.1	107	21.7
	⑩ 幹線道路などが整備され、車両の移動しやすい	27	10.4	12	8.4	5	5.6	44	8.9
	⑪ 電車やバスの便などの公共交通が使いやすい	51	19.6	31	21.7	11	12.4	93	18.9
ゆとり・うるおい	⑫ 美しい建築物や道路による良好な景観がある	35	13.5	14	9.8	11	12.4	60	12.2
	⑬ 緑豊かで憩いをつづげる場所がある	65	25.0	28	19.6	19	21.3	112	22.8
	⑭ 河川・水路などの水に親しめる場所がある	25	9.6	19	13.3	12	13.5	56	11.4
最寄り駅について	⑮ バスやタクシーの乗場などが整備されている	18	6.9	8	5.6	6	6.7	32	6.5
	⑯ 駅前周辺に娯楽施設や商業施設などが十分にある	57	21.9	18	12.6	15	16.9	90	18.3
	⑰ 駅や商業施設などに駐輪場が十分にある	35	13.5	10	7.0	5	5.6	50	10.2
	⑱ 駅周辺の商業施設などに駐車場が十分にある	44	8.9	30	11.5	10	7.0	4	4.5

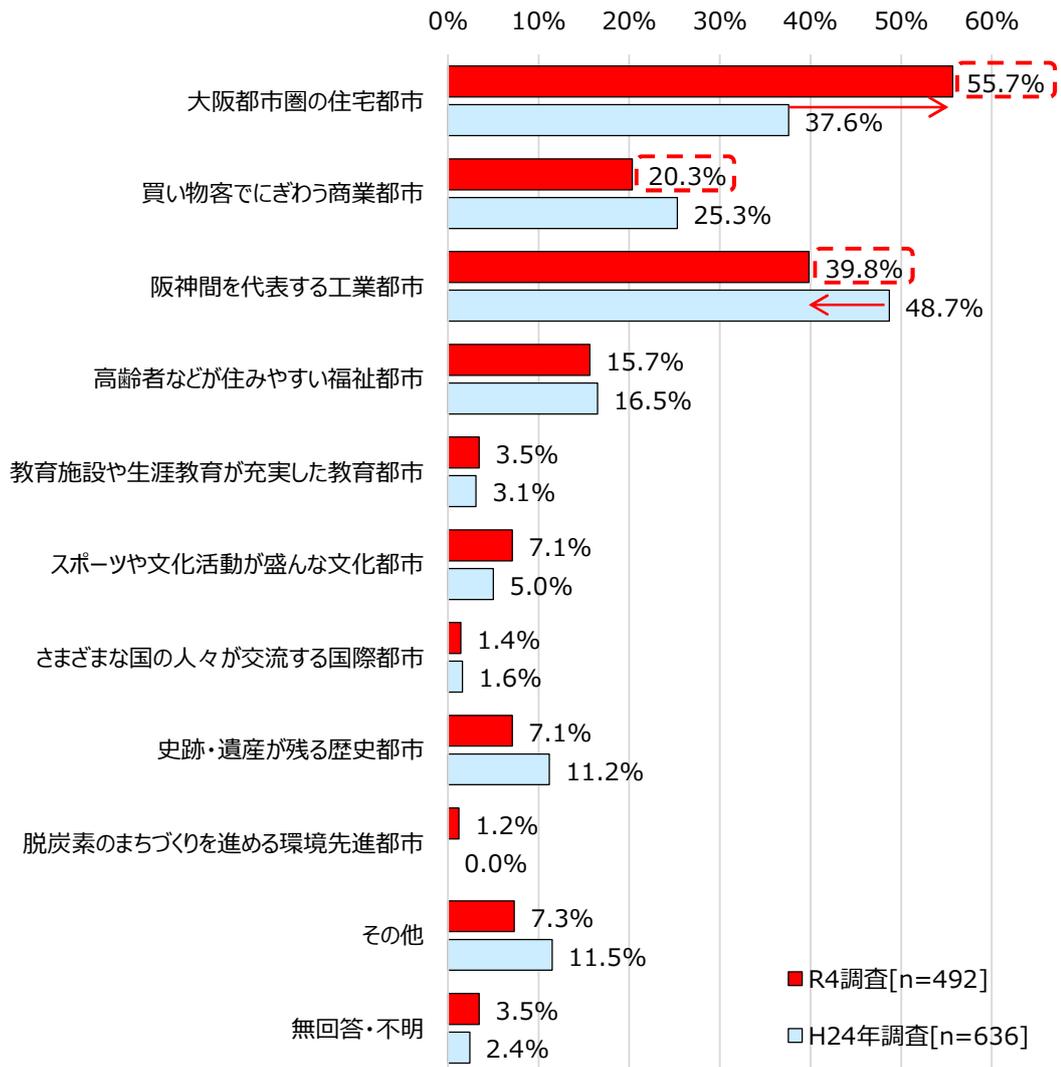
【まちづくりで優先すべき項目×地域区分】



### ⑥ 尼崎市の現在の都市イメージ [複数回答]

尼崎市の現在のイメージについては、「大阪都市圏の住宅都市」が55.7%と最も高く、次いで「阪神間を代表する工業都市」39.8%、「買い物客でにぎわう商業都市」20.3%の順に高くなっている。

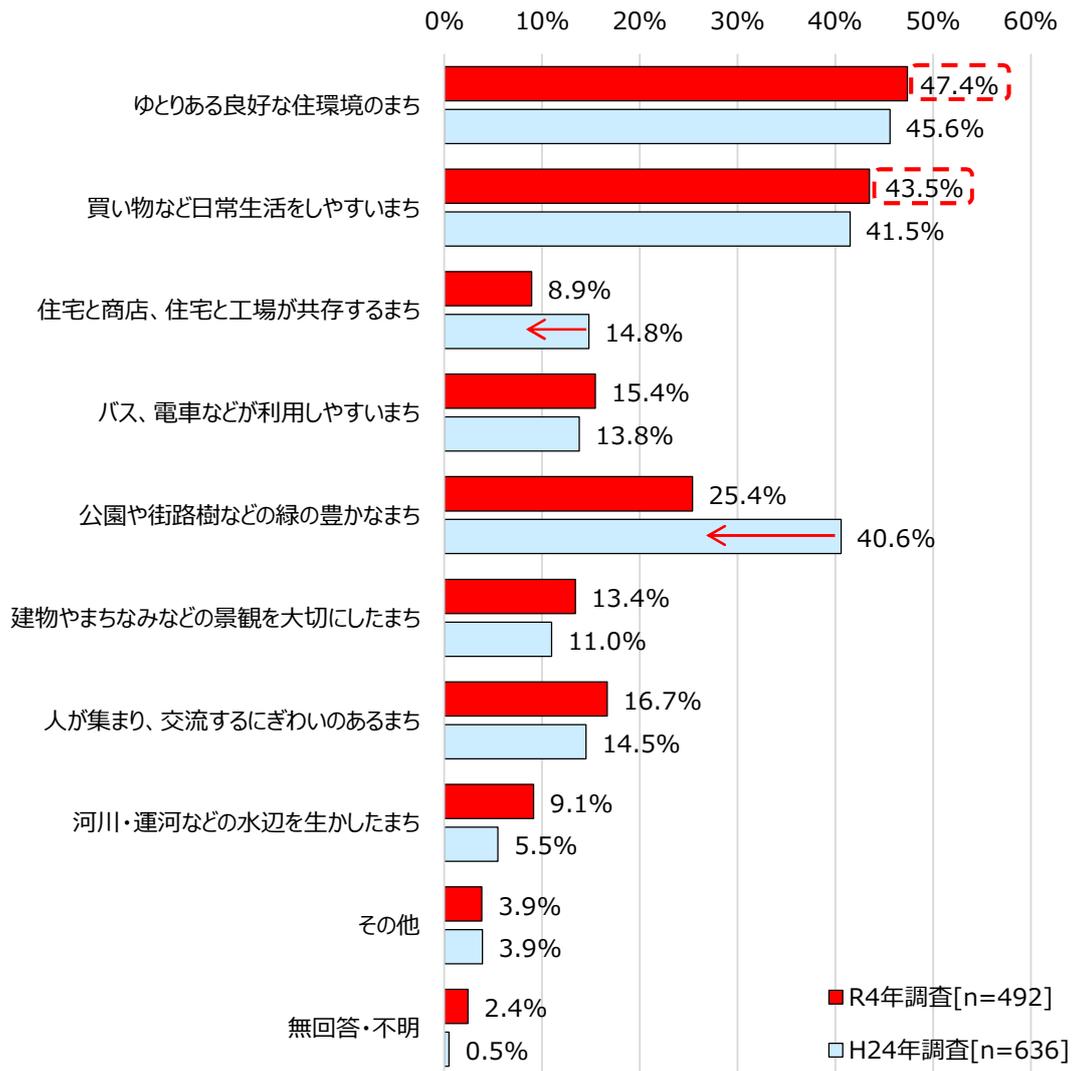
また、前回調査（平成24年）では、「阪神間を代表する工業都市」が第1位であったが、今回は10ポイント近く減少し、「大阪都市圏の住宅都市」が20ポイント近く上昇し逆転しており、尼崎市の都市イメージは、工業都市から住宅都市へと変化してきている。



⑦ 尼崎市がどのような都市になってほしいか [複数回答]

尼崎市がどのような都市になってほしいかについては、「ゆとりある良好な住環境のまち」が47.4%、「買い物など日常生活をしやすいまち」が43.5%とそれぞれ半数近くが回答している。

また、前回調査（平成24年）から目立った変化としては、「公園や街路樹などの緑の豊かなまち」が大きく減少しており、なっている都市のイメージは上記の2項目に集中している。また（1）⑥で工業都市としての尼崎市のイメージが減少したのに対応して、「住宅と商店、住宅と工場が共存するまち」の回答率も減少している。

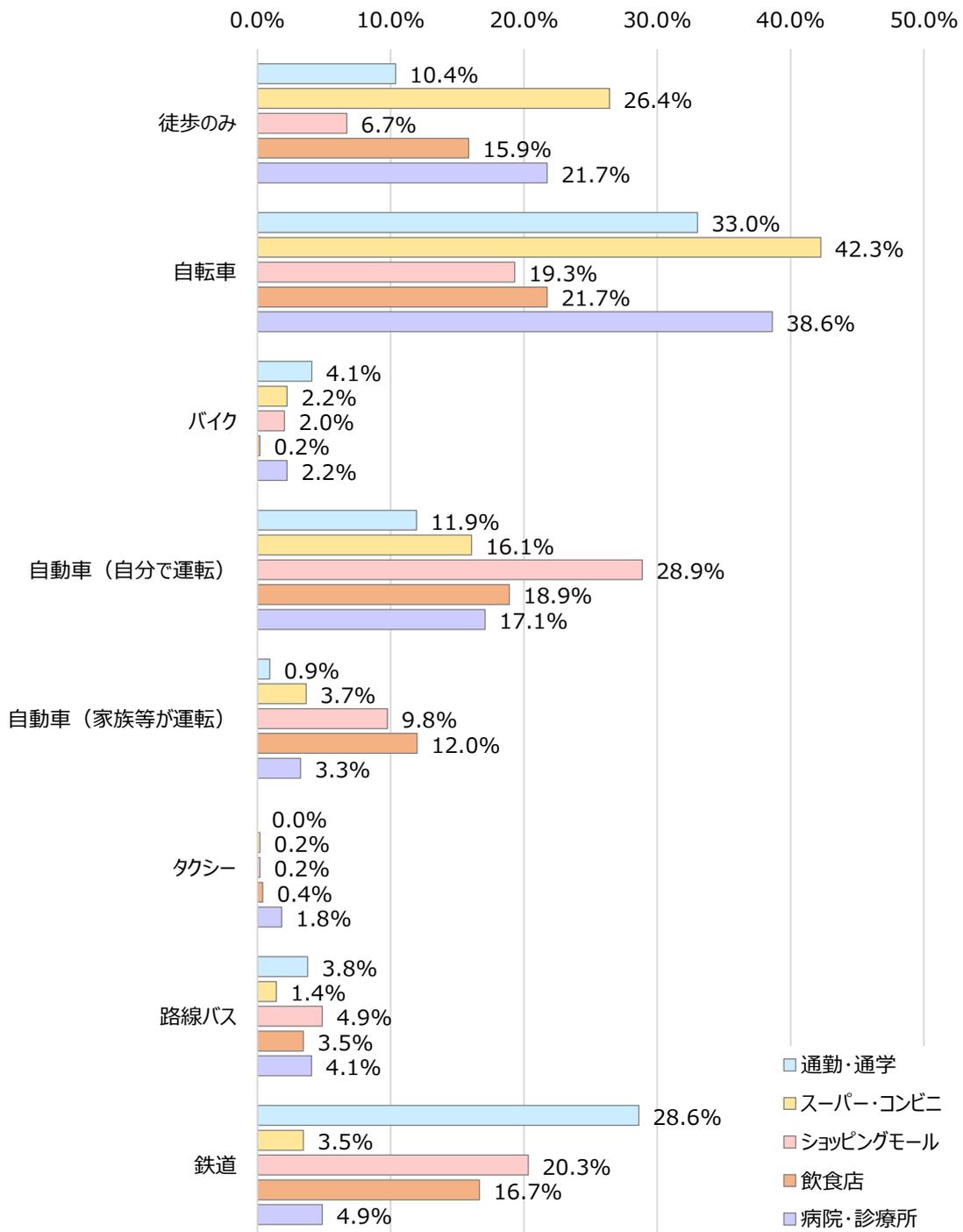


⑧ 日常生活の中で利用する施設の場所と主な移動手段【単一回答】

通勤・通学の移動手段は、「自転車」、「鉄道」が多い傾向がみられる。また、スーパー・コンビニへの移動は、「自転車」「徒歩のみ」が多く、ショッピングモールへの移動は「自動車」「鉄道」が多く、飲食店への移動は、「自転車」「自動車」が多く、病院・診療所への移動は、「自転車」「徒歩のみ」が多い傾向がみられる。

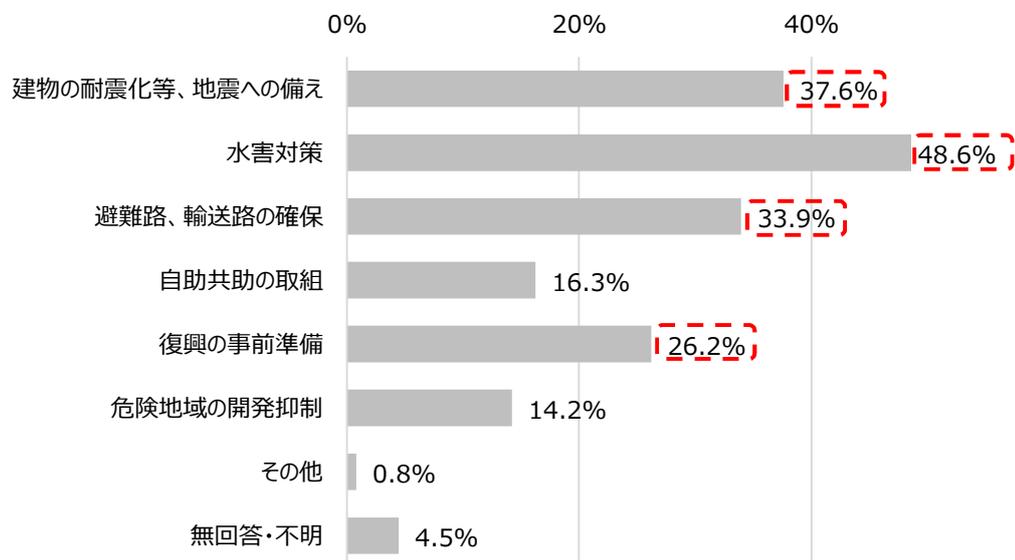
いずれの施設においても「自転車」での移動割合が高い傾向にあり、尼崎市市内においては自転車での移動需要が高いものと推測される。

【主な移動手段×外出目的】



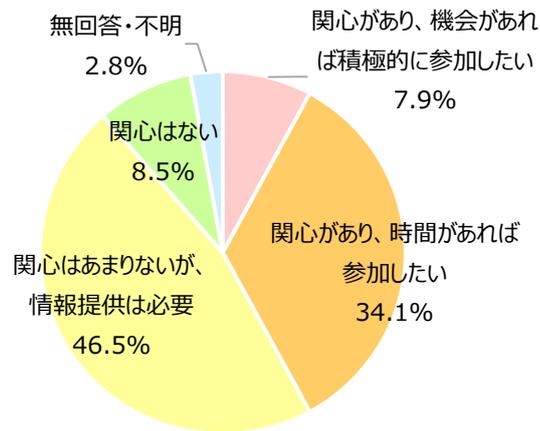
### ⑨ 防災・減災に必要なこと [複数回答]

防災・減災に必要な取組については、最も多かったのは「水害対策」で 48.6%と半数近くが回答している。次いで「建物の耐震化等、地震への備え」37.6%、「避難路、輸送路の確保」33.9%と続いている。また「復興の事前準備」についても 26.2%と比較的高い関心が寄せられている。



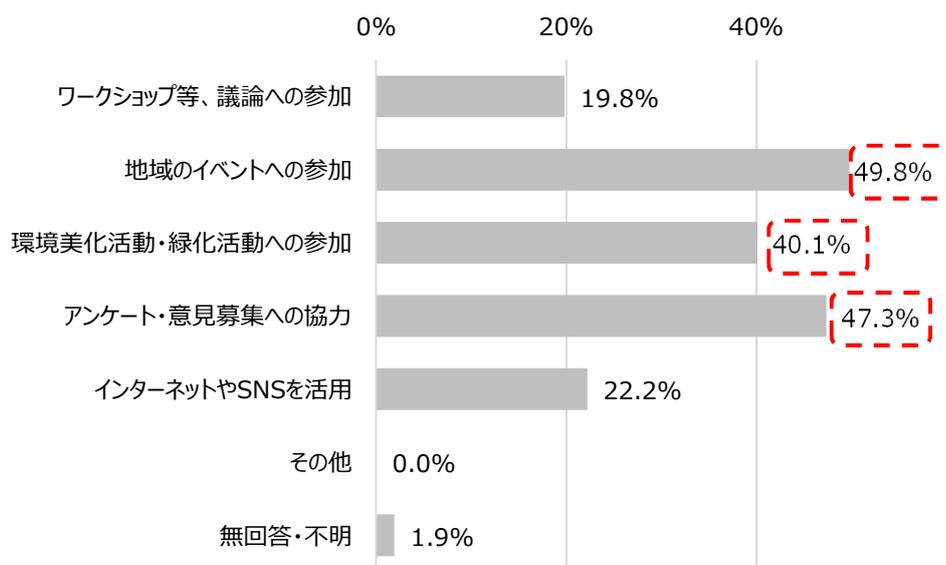
⑩-1 地域のまちづくりへの関心 [単一回答]

どのようにまちづくりに参加したいかについては、「関心があり、機会があれば積極的に参加したい」が7.9%、「関心があり、時間があれば参加したい」が34.1%で、合計すると40%を超える方が地域のまちづくりに積極的な回答をしている。一方、「関心はない」・「関心はあまりない」とする方は合計すると過半数を超えているが、46.5%が「情報提供は必要」としている。



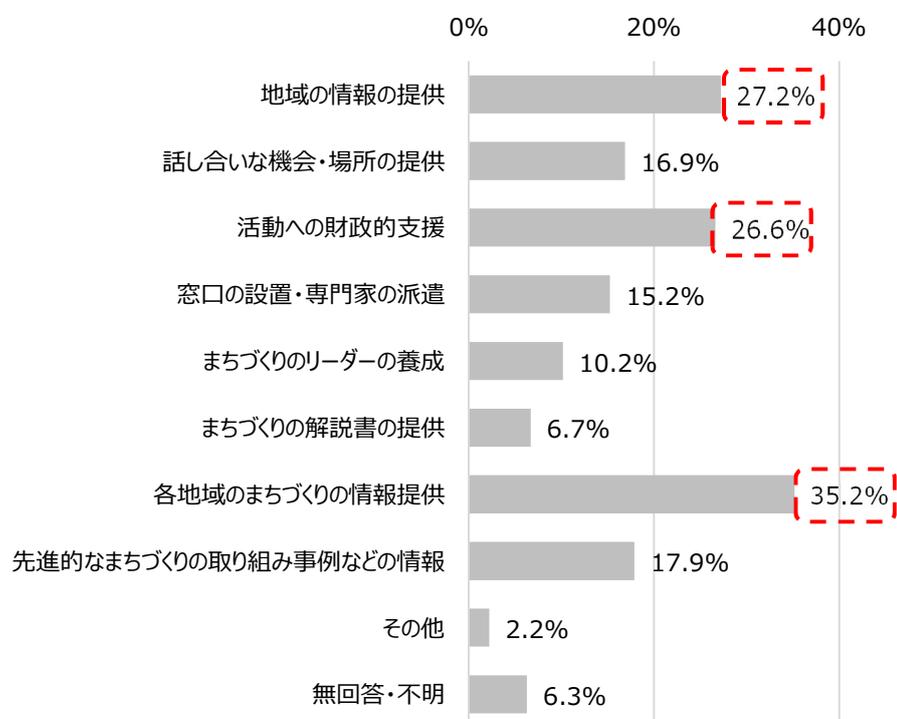
⑩-2 地域のまちづくりへの参加方法 [複数回答]

まちづくりへの参加意向のあった207人の方に、参加の内容を尋ねたところ、「地域のイベントへの参加」が49.8%、「アンケート・意見募集への協力」が47.3%とそれぞれほぼ半数が回答しており、次いで「環境美化活動・緑化活動への参加」が40.1%と多くなっている。



### ⑩-3 市民のまちづくりへの参加のために、市が行うべき取組 [複数回答]

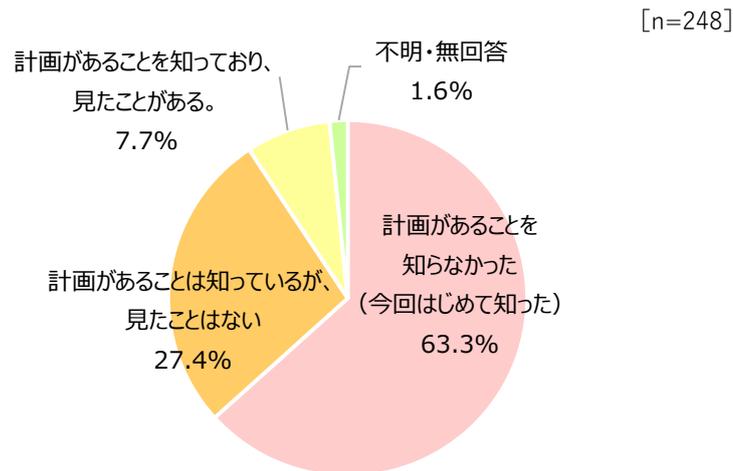
「各地域のまちづくりの情報提供」が35.2%と最も多く、「地域の情報(人口、歴史、法律の制限、基盤整備の状況など)の提供」が27.2%、「まちづくりの活動への財政的支援」が26.6%と続いている。



## (2) 事業者アンケート

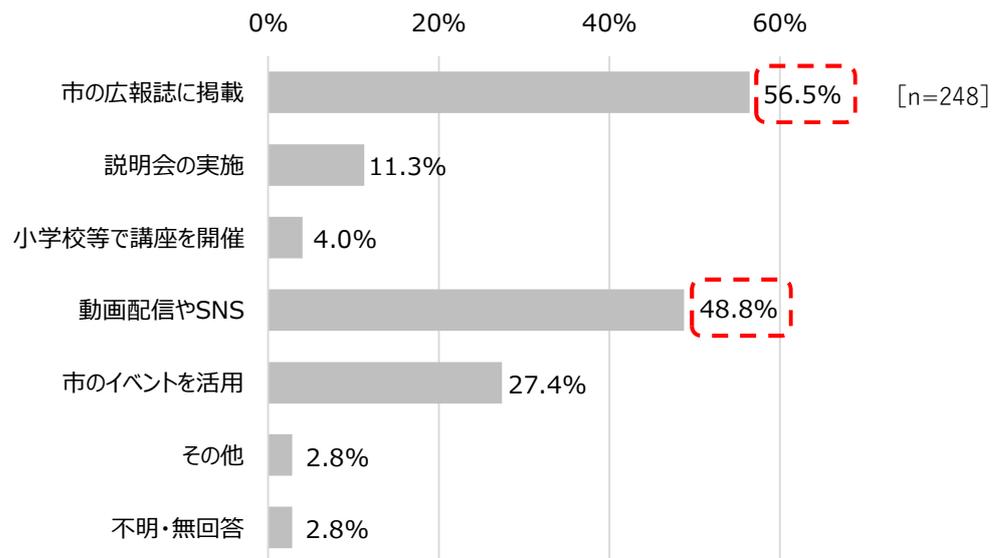
### ① 現行（平成 26 年）都市計画マスタープランの認知度 [単一回答]

現行（平成 26 年版）都市計画マスタープランの認知度については、「計画があることを知らなかった（今回はじめて知った）」が 63.3%と大半を占めている。「計画があることを知っているが、見たことはない」を含め約 90%が計画を見たことがなく、計画の内容はほとんど事業者に認知されていないものと考えられる。



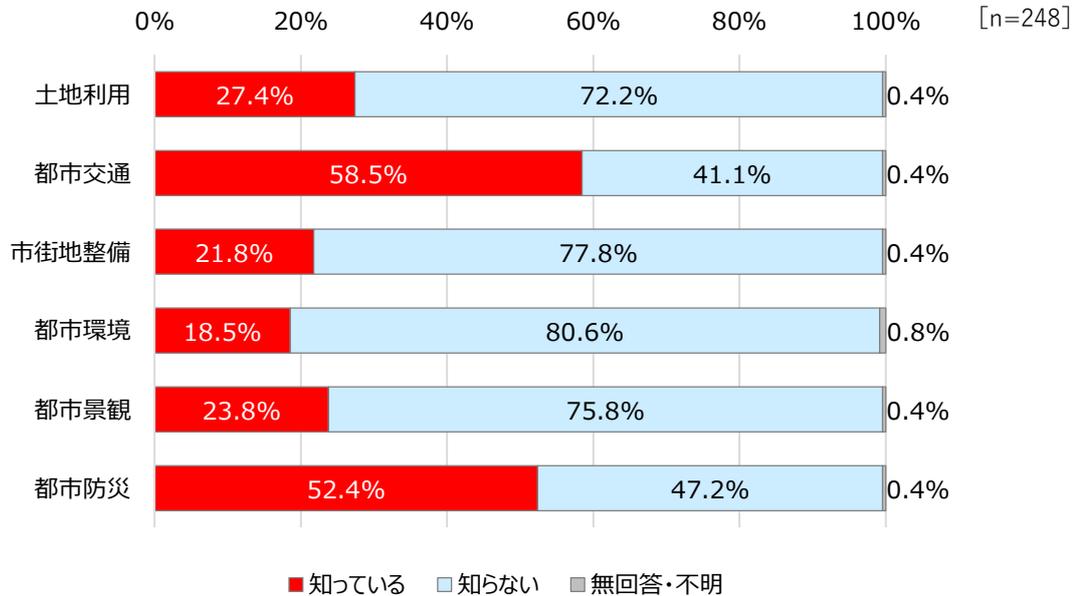
### ② 都市計画マスタープランの効果的な周知方法 [複数回答]

都市計画マスタープランの効果的な周知方法については、「市の広報誌に掲載」が 56.5%と最も高く、次いで「動画配信や SNS」が 48.8%を占めている。



③ 尼崎市の分野別のまちづくりの取組を知っているか [単一回答]

尼崎市の分野別のまちづくりの取組について、知っている割合が高かったのは【都市交通】と【都市防災】の分野で「知っている」がそれぞれ58.5%、52.4%であった。一方、【土地利用】、【市街地整備】、【都市環境】、【都市景観】の分野については、いずれも「知らない」が70%を超えている。



分野	代表的な取組内容
土地利用	【利便性が高く魅力と活力ある都市空間を創出する取組】 ・公共施設再編を通して、子どもたちの健やかな成長を目指していく拠点「あまがさき・ひと咲きプラザ」が令和元年から本格的に始動していること
都市交通	【誰もが安全で快適に移動できる交通空間形成に向けた取組】 ・自転車での快適な移動を推進するために、自転車専用レーンや駐輪場、コミュニティーサイクルを整備していること
市街地整備	【安心して生活できる安全で魅力ある市街地整備の取組】 ・老朽危険空家の解消や空き家の利活用、流通の促進に向けて様々な取組を行っていること
都市環境	【持続可能な社会に向けた循環型・低炭素まちづくりの取組】 ・地球温暖化やごみ減量に向け、児童一人ひとりが自分で考え、行動するために、小学生の授業で活用できる環境教育プログラムを実施していること
都市景観	【誇りと愛着と活力のある美しいまちをめざす取組】 ・美しいまちの景観に貢献する建物や活動を「まちかどチャームング賞」として表彰していること
都市防災	【被害を最小限に抑える災害に強いまちづくりの取組】 ・地域の自主防災会が実施する地域防災マップづくりや防災訓練等を支援していること

#### ④-1 現状の尼崎市の満足度 [単一回答]

現状の尼崎市の満足度について評点をみると、「②近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ」(0.83 ポイント)、「①食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ」(0.75 ポイント)といった、住みやすさに関する項目の満足度が比較的高い。逆に、「⑩美しい建築物や道路による良好な景観がある」(-0.35 ポイント)や「⑪緑豊かで憩いくつろげる場所がある」(-0.17 ポイント)など、ゆとり・うるおいに関する項目での満足度が低い結果となっている。

項目	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	無回答・不明	合計	評点	前回調査評点 [H24]	
	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)			
住みやすさ	①食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ	67	93	47	22	12	7	248	0.75	<b>0.71</b>
	②近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ	64	108	50	17	7	2	248	<b>0.83</b>	0.66
	③日頃利用する公園の使いやすさ	29	64	111	24	16	4	248	0.27	0.08
安全性	④近くに避難施設があるなど、災害時の逃げやすさ	29	72	97	31	15	4	248	0.28	-0.10
	⑤道が広いなど、地震や火災に対する強さ	17	70	87	52	17	5	248	0.07	-0.18
	⑥歩道や横断歩道の整備などによる歩行者の歩きやすさ	13	71	85	56	20	3	248	0.00	-0.27
交通	⑦道路が整備され自転車が走りやすい	12	57	88	66	22	3	248	-0.12	-0.52
	⑧幹線道路などが整備され、車両が移動しやすい	22	88	85	39	11	3	248	0.29	0.22
	⑨電車やバスの便などの公共交通が使いやすい	36	101	71	25	13	2	248	0.50	0.30
ゆとり・うるおい	⑩美しい建築物や道路による良好な景観がある	4	38	105	67	32	2	248	-0.35	-0.60
	⑪緑豊かで憩いくつろげる場所がある	9	48	107	57	25	2	248	-0.17	-0.39
	⑫河川・水路などの水に親しめる場所がある	14	50	102	48	31	3	248	-0.13	-0.38
最寄りの駅について	⑬バスやタクシーの乗場などが整備されている	32	94	72	37	10	3	248	0.41	0.37
	⑭駅周辺に娯楽施設や商業施設などが十分にある	32	79	75	39	21	2	248	0.25	0.25
	⑮駅や商業施設などに駐輪場が十分にある	25	70	93	38	19	3	248	0.18	-0.16
	⑯駅周辺の商業施設などに駐車場が十分にある	22	52	86	63	22	3	248	-0.04	-0.22

※①～⑯における評点及び前回調査評点の最大値を黒太字、最小値を赤太字で表記

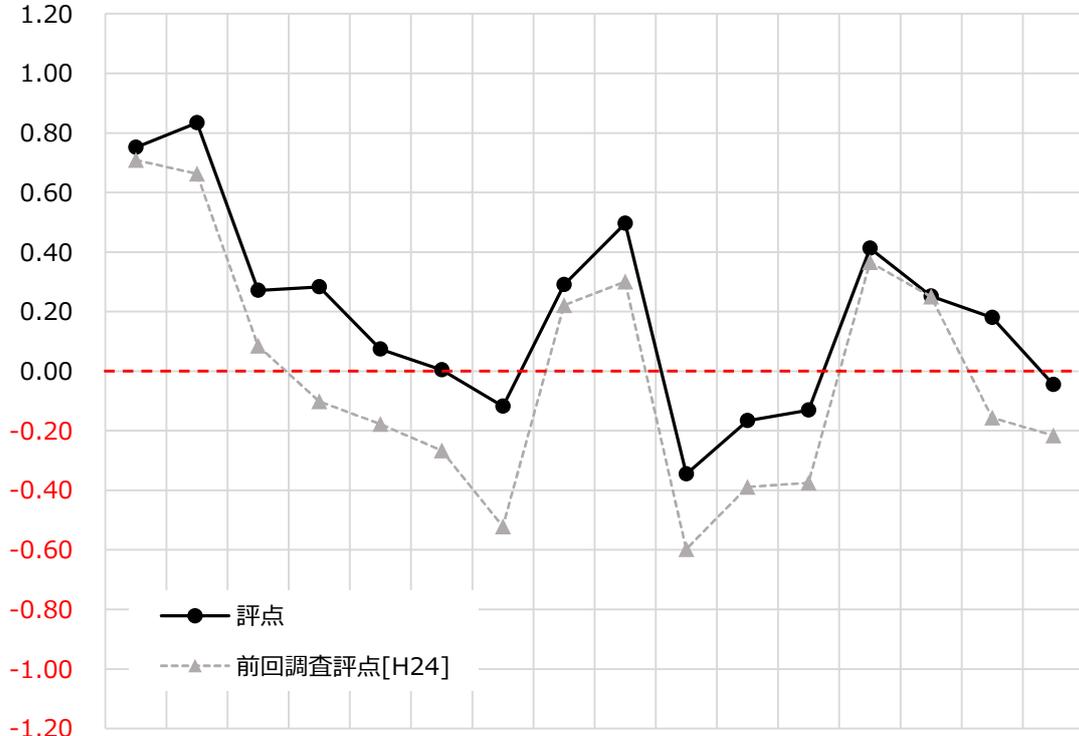
[評点について]

- ・満足：2点、やや満足：1点、どちらでもない：0点、やや不満：-1点、不満：-2点とした加重平均の値
- ・基準点は0点であり、値が正の場合、満足の方が多いいえる。無回答・不明は算出から除外。

平成 24 年の前回調査と比較すると、今回の評点の傾向はおおむね同じであるが、市民アンケート結果と同様、全体的に評点は上がっている。

【現在の尼崎市の満足度-評点】

[n=248]



- ① 食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ
- ② 近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ
- ③ 日頃利用する公園の使いやすさ
- ④ 近くに避難施設があるなど、災害時の逃げやすさ
- ⑤ 道が広いなど、地震や火災に対する強さ
- ⑥ 歩道や横断歩道の整備などによる歩行者の歩きやすさ
- ⑦ 道路が整備され自転車が走りやすい
- ⑧ 幹線道路などが整備され、車両が移動しやすい
- ⑨ 電車やバスの便などの公共交通が使いやすい
- ⑩ 美しい建築物や道路による良好な景観がある
- ⑪ 緑豊かで憩いくつろげる場所がある
- ⑫ 河川・水路などの水に親しめる場所がある
- ⑬ バスやタクシーの乗場などが整備されている
- ⑭ 駅周辺に娯楽施設や商業施設などが十分にある
- ⑮ 駅や商業施設などに駐輪場が十分にある
- ⑯ 駅周辺の商業施設などに駐車場が十分にある

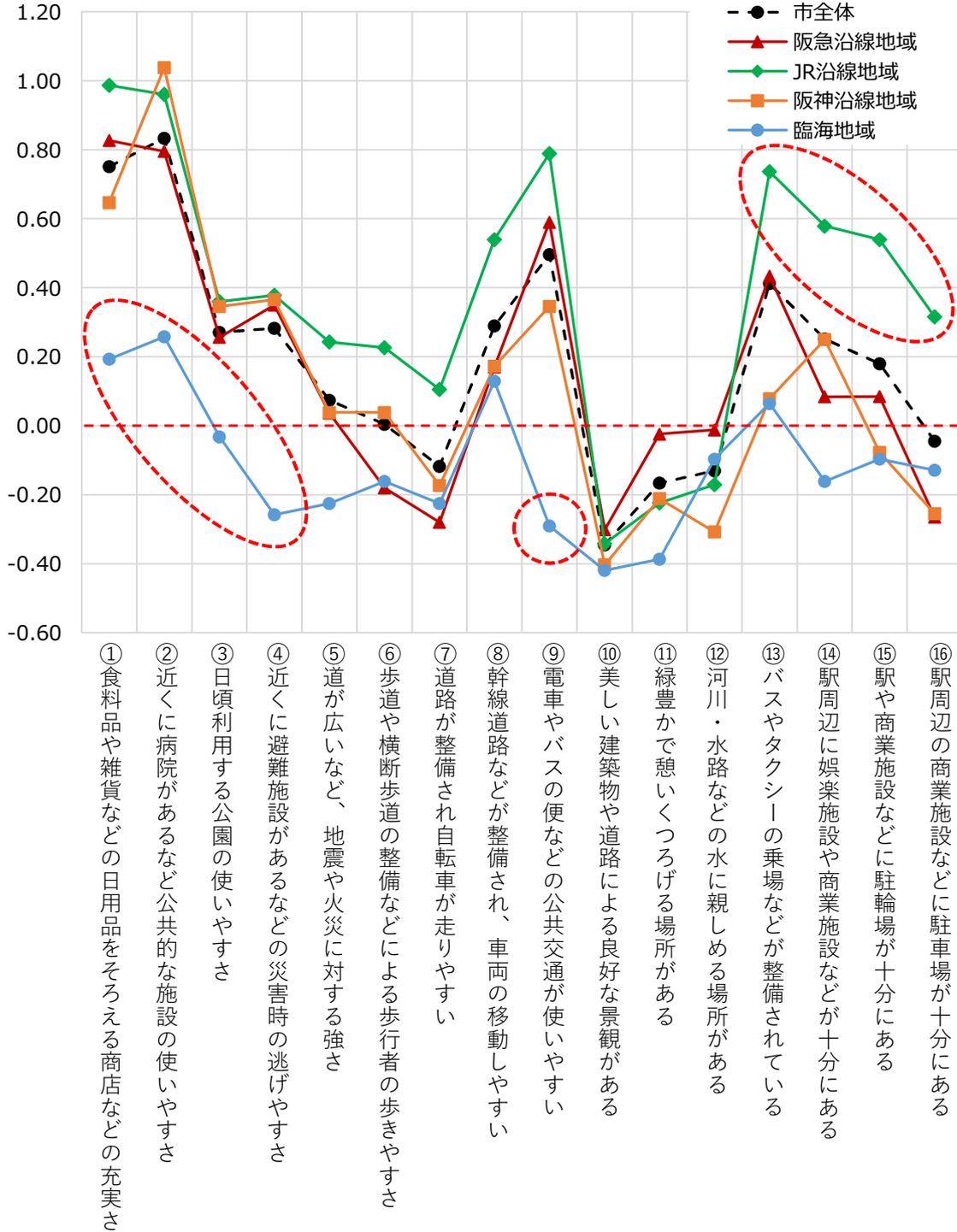
#### ④-2 現状の尼崎の満足度×地域区分 [単一回答]

尼崎のまちづくりの満足度（評点）について、臨海地域をみると「①食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ」、「②近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ」、「③日頃利用する公園の使いやすさ」がそれぞれ 0.19、0.26、-0.03 で、日常生活に関する項目が他の 3 地域と比較して満足度が低い。また「④近くに避難施設があるなどの災害時の逃げやすさ」が-0.26、「⑨電車やバスの便などの公共交通が使いやすい」が-0.29 で、他の 3 地域では満足度が高いにも関わらず臨海地域では満足度が低い。一方、JR 沿線地域をみると「⑬バスやタクシーの乗場などが整備されている」が 0.74、「⑭駅周辺に娯楽施設や商業施設などが十分にある」が 0.58、「⑮駅や商業施設などに駐輪場が十分にある」が 0.54、「⑯駅周辺の商業施設などに駐車場が十分にある」が 0.32 で、他の 3 地域と比較して満足度が高い。

項目		阪急 沿線地域	JR 沿線地域	阪神 沿線地域	臨海地域	市全体
住みやすさ	① 食料品や雑貨などの日用品をそろえる商店などの充実さ	<b>0.83</b>	<b>0.99</b>	0.65	0.19	0.75
	② 近くに病院があるなど公共的な施設の使いやすさ	0.80	0.96	<b>1.04</b>	<b>0.26</b>	<b>0.83</b>
	③ 日頃利用する公園の使いやすさ	0.26	0.36	0.35	-0.03	0.27
安全性	④ 近くに避難施設があるなどの災害時の逃げやすさ	0.35	0.38	0.37	-0.26	0.28
	⑤ 道が広いなど、地震や火災に対する強さ	0.04	0.24	0.04	-0.23	0.07
	⑥ 歩道や横断歩道の整備などによる歩行者の歩きやすさ	-0.18	0.23	0.04	-0.16	0.00
交通	⑦ 道路が整備され自転車が走りやすい	-0.28	0.11	-0.17	-0.23	-0.12
	⑧ 幹線道路などが整備され、車両の移動しやすい	0.17	0.54	0.17	0.13	0.29
	⑨ 電車やバスの便などの公共交通が使いやすい	0.59	0.79	0.35	-0.29	0.50
ゆとり・うるおい	⑩ 美しい建築物や道路による良好な景観がある	-0.30	-0.34	-0.40	-0.42	-0.35
	⑪ 緑豊かで憩いづろげる場所がある	-0.02	-0.22	-0.21	-0.39	-0.17
	⑫ 河川・水路などの水に親しめる場所がある	-0.01	-0.17	-0.31	-0.10	-0.13
最寄りの駅について	⑬ バスやタクシーの乗場などが整備されている	0.43	0.74	0.08	0.06	0.41
	⑭ 駅周辺に娯楽施設や商業施設などが十分にある	0.08	0.58	0.25	-0.16	0.25
	⑮ 駅や商業施設などに駐輪場が十分にある	0.09	0.54	-0.08	-0.10	0.18
	⑯ 駅周辺の商業施設などに駐車場が十分にある	-0.27	0.32	-0.25	-0.13	-0.04

※地域区分ごと及び市全体における評点の最大値を黒太字、最小値を赤太字で表記。

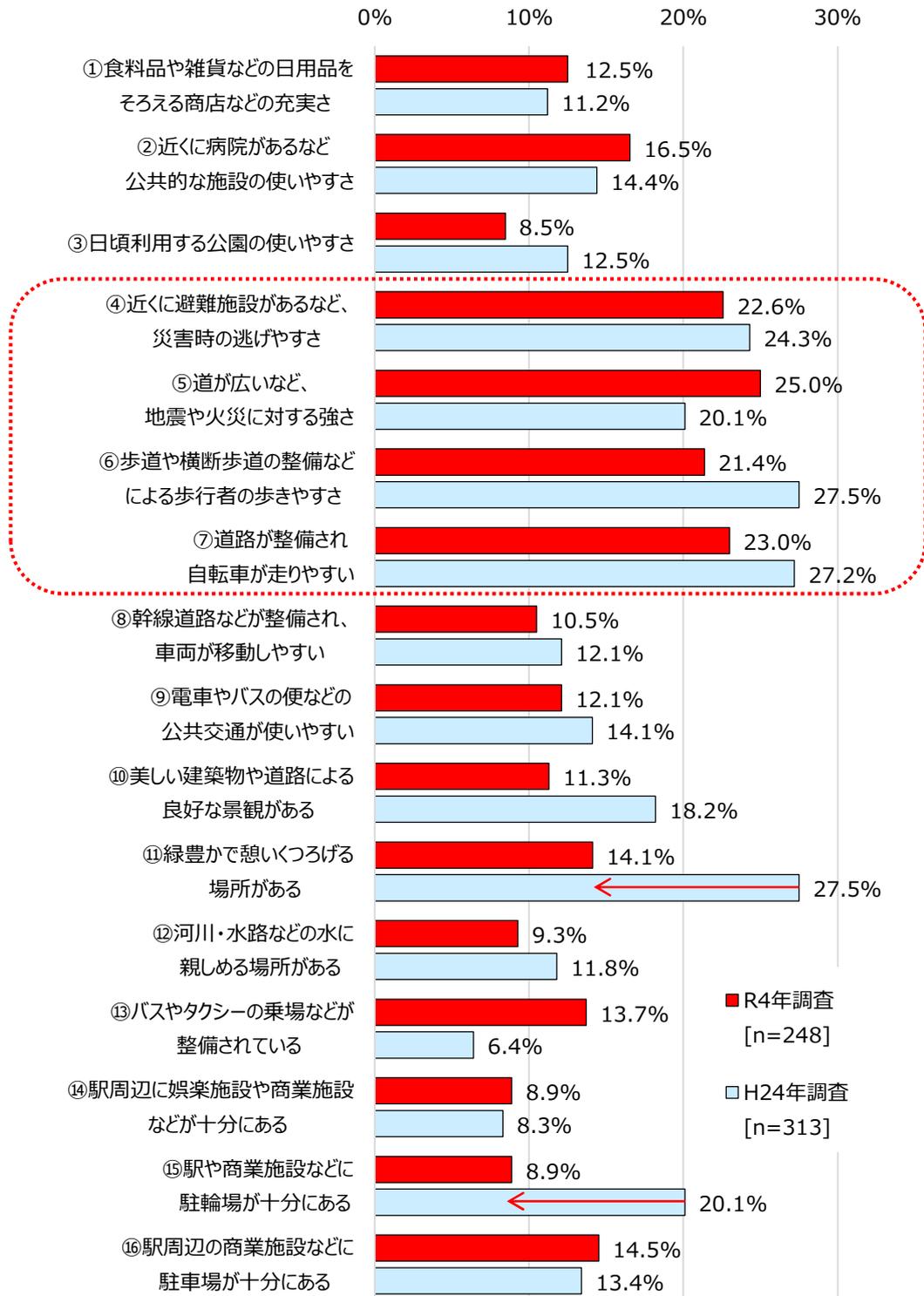
【尼崎のまちづくりの満足度×地域区分】



⑤ 今後のまちづくりについて市が優先して取り組むべき項目 [複数回答]

今後のまちづくりについて市が優先して取り組むべき項目については、「⑤道が広いなど、地震や火災に対する強さ」が25.0%と最も高く、次いで「⑦道路が整備され自転車が走りやすい」が23.0%、「④近くに避難施設があるなど、災害時の逃げやすさ」が22.6%と安全性に関係する項目の割合が比較的高くなっている。

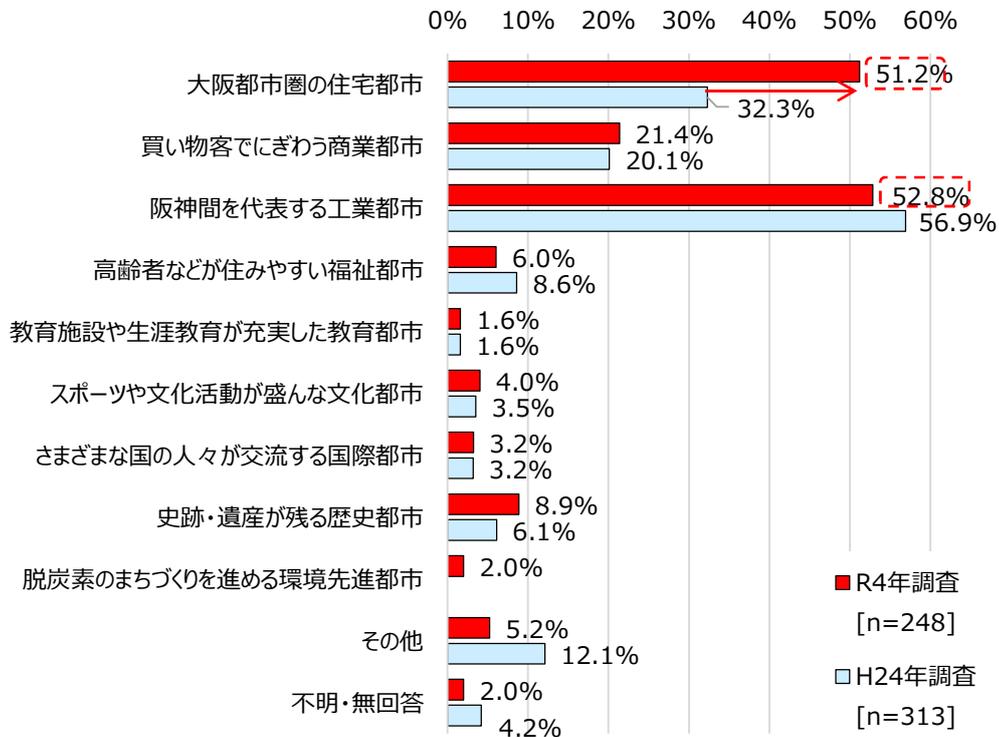
また、前回調査（平成24年）と比較すると、「⑪緑豊かで憩いくつろげる場所がある」、「⑮駅や商業施設などに駐輪場が十分にある」の項目で10ポイント以上回答率が下がっている。特に⑮は、(2)④-1で満足度が大きく上昇した項目であり、市の取組が評価された結果であると考えられる。



⑥ 尼崎市の現在のイメージ [複数回答]

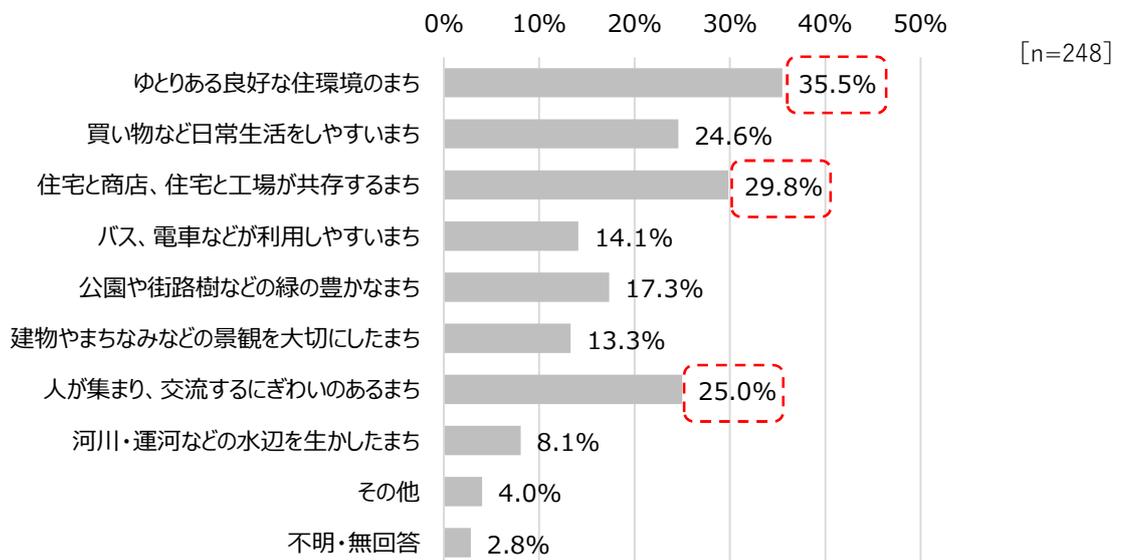
尼崎市の現在のイメージについては、「阪神間を代表する工業都市」が 52.8%と最も高く、次いで「大阪都市圏の住宅都市」が 51.2%を占めている。

また、前回調査（平成 24 年）と比較すると、「大阪都市圏の住宅都市」が 20 ポイント近く上昇し、若干回答率が下がった「阪神間を代表する工業都市」とほぼ並んでおり、市民アンケート同様、住宅都市としての市のイメージが拡大してきている。



⑦-1 尼崎市がどのようなまちになってほしいか [複数回答]

尼崎市がどのようなまちになってほしいかについては、「ゆとりある良好な住環境のまち」が 35.5%と最も高く、次いで「住宅と商店、住宅と工場が共存するまち」29.8%、「人が集まり、交流するにぎわいのあるまち」25.0%の順となっている。



⑦-2 尼崎がどのようなまちになってほしいか×地域区分 [複数回答]

尼崎がどのようなまちになってほしいかについて、臨海地域をみると「住宅と商店、住宅と工場が共存するまち」が53.1%で全体の水準より20ポイント以上高い。また、「人が集まり、交流するにぎわいのあるまち」が37.5%で、全体の水準より約13ポイント高い。一方、阪急沿線地域では、「公園や街路樹などの緑の豊かなまち」が26.2%で全体の水準より約9ポイント高い。

項目	阪急沿線地域 [n=84]		JR沿線地域 [n=76]		阪神沿線地域 [n=52]		臨海地域 [n=32]		市全体 [n=248](※)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
ゆとりある良好な住環境のまち	34	40.5	28	36.8	19	36.5	6	18.8	87	35.1
買い物など日常生活をしやすいまち	16	19.0	26	34.2	16	30.8	3	9.4	61	24.6
住宅と商店、住宅と工場が共存するまち	20	23.8	18	23.7	16	30.8	17	53.1	71	28.6
バス、電車などが利用しやすいまち	9	10.7	11	14.5	9	17.3	6	18.8	35	14.1
公園や街路樹などの緑の豊かなまち	22	26.2	11	14.5	6	11.5	4	12.5	43	17.3
建物やまちなみなどの景観を大切にしたいまち	10	11.9	10	13.2	8	15.4	5	15.6	33	13.3
人が集まり、交流するにぎわいのあるまち	22	26.2	11	14.5	15	28.8	12	37.5	60	24.2
河川・運河などの水辺を生かしたまち	6	7.1	8	10.5	2	3.8	4	12.5	20	8.1
その他	6	7.1	2	2.6	1	1.9	1	3.1	10	4.0
不明・無回答	5	6.0	0	0.0	1	1.9	1	3.1	7	2.8

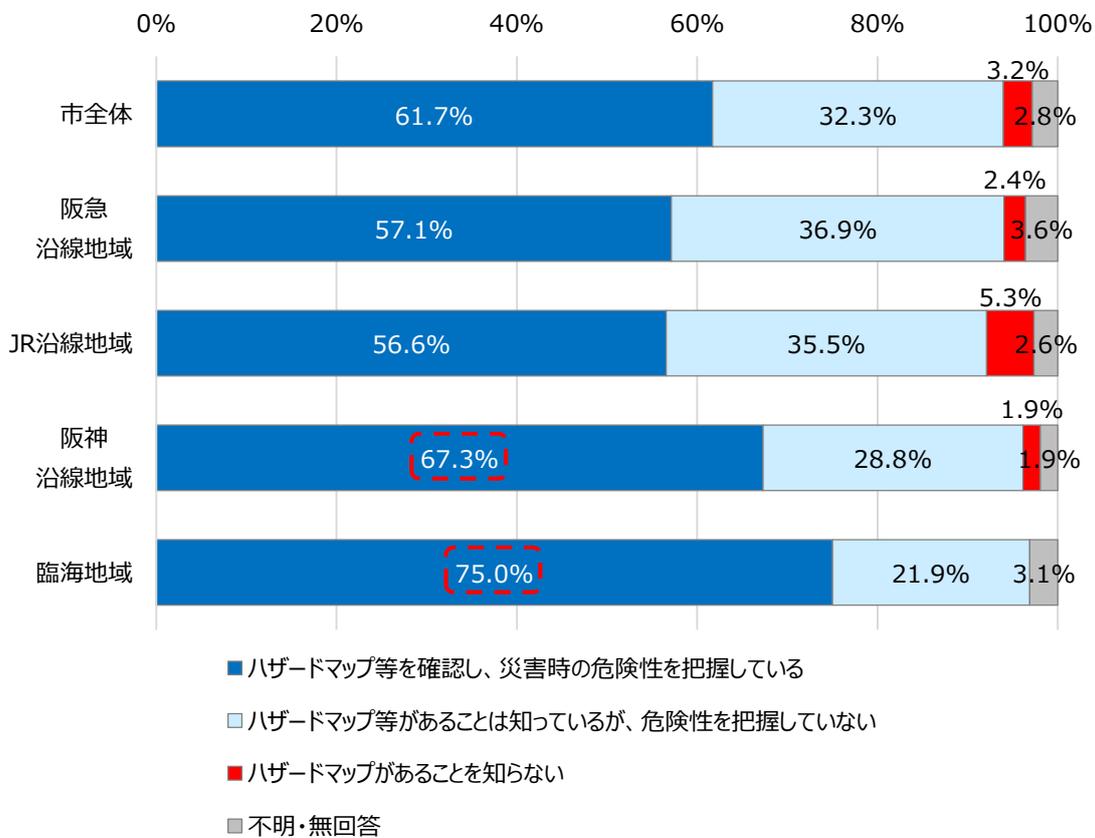
※地域区分別集計値は全体より「地域区分不明」:4件を除く

⑧-1 災害リスクを知っているか×地域区分 [単一回答]

災害リスクを知っているかについて地域区分別で比較すると、南側の地域ほど「ハザードマップ等を確認し、災害時の危険性を把握している」の割合が高く、臨海地域では75.0%である。

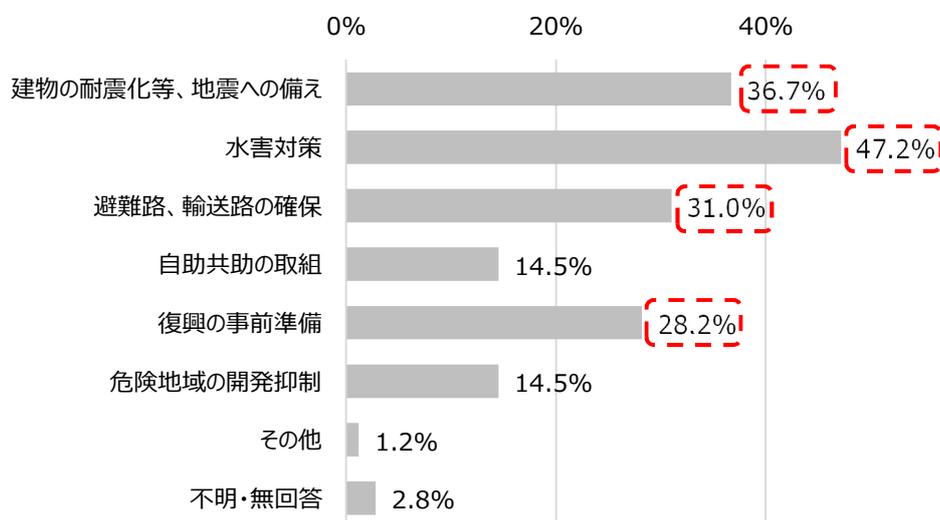
項目	阪急 沿線地域 [n=84]		JR 沿線地域 [n=76]		阪神 沿線地域 [n=52]		臨海地域 [n=32]		市全体 [n=248](※)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
ハザードマップ等を確認し、災害時の危険性を把握している	48	57.1	43	56.6	35	67.3	24	75.0	153	61.7
ハザードマップ等があることは知っているが、危険性を把握していない	31	36.9	27	35.5	15	28.8	7	21.9	80	32.3
ハザードマップがあることを知らない	2	2.4	4	5.3	1	1.9	0	0.0	8	3.2
不明・無回答	3	3.6	2	2.6	1	1.9	1	3.1	7	2.8

※地域区分別集計値は全体より「地域区分不明」:4件を除く



### ⑧-2 防災・減災に必要なこと [複数回答]

防災・減災に必要な取組について尋ねたところ、最も多かったのは「水害対策」で 47.2%と半数近くが回答している。次いで「建物の耐震化等、地震への備え」36.7%、「避難路、輸送路の確保」31.0%、「復興の事前準備」についても 28.2%と続いており、市民アンケートとほぼ同様の結果となっている。



⑨ 事業を営む上での問題点×地域区分 [複数回答]

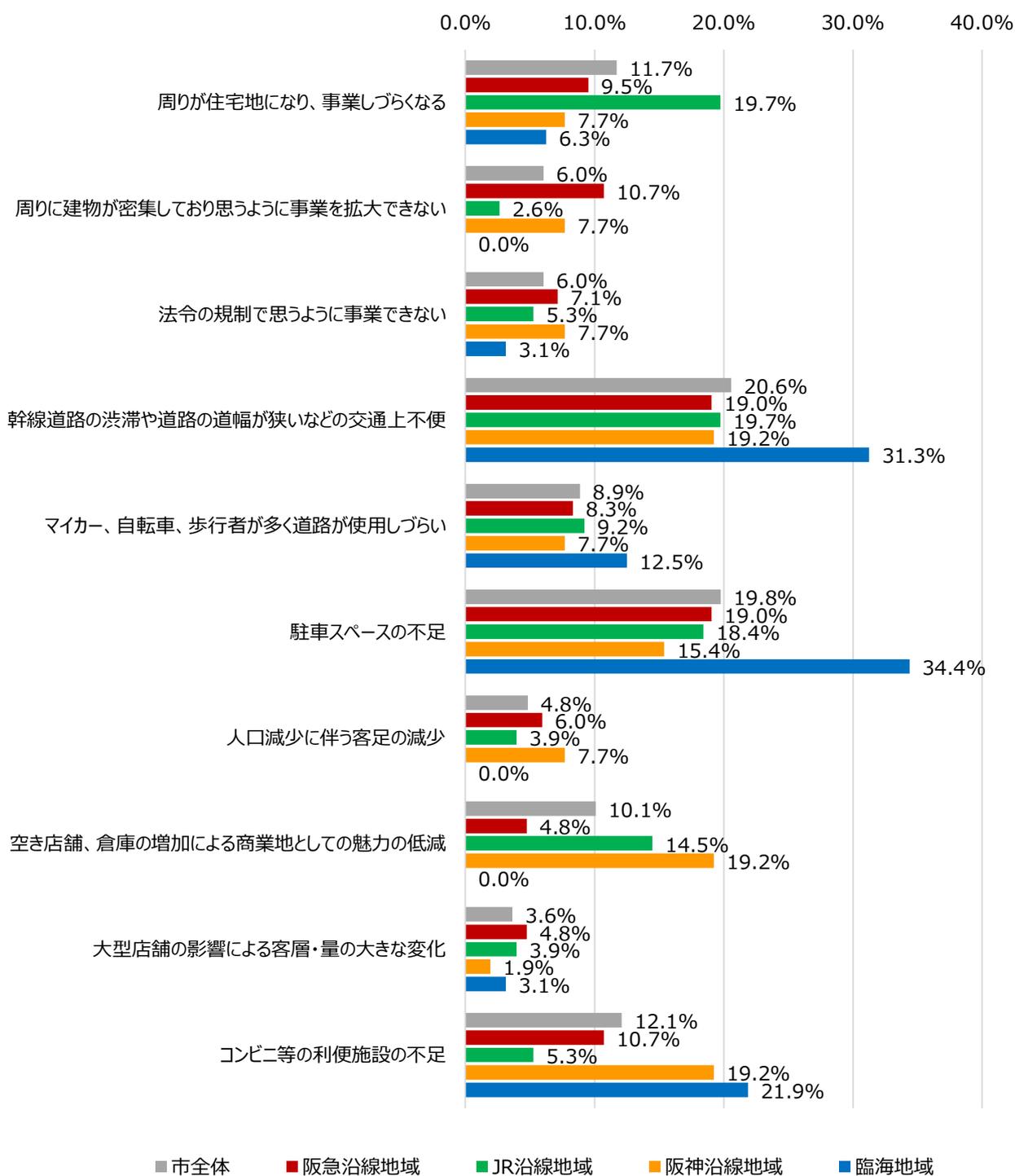
事業を営む上での問題点について地域区分別で比較すると、臨海地域をみると「駐車スペースの不足」が34.4%、「幹線道路の渋滞や道路の道幅が狭いなどの交通上不便」が31.3%で、両方の項目で全体の水準より約10ポイント以上高く、交通上の課題が見える。また、南部の地域（阪神沿線地域、臨海地域）では「コンビニ等の利便施設の不足」がそれぞれ19.2%、21.9%で、北部・中部の地域（阪急沿線地域、JR沿線地域）と比較して割合が高い。さらに、阪神沿線地域については「空き店舗、倉庫の増加による商業地としての魅力の低減」が19.2%と多く、商業機能の弱さ・衰退が課題となっている。

項目	阪急沿線地域 [n=84]		JR沿線地域 [n=76]		阪神沿線地域 [n=52]		臨海地域 [n=32]		市全体 [n=248] (※)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
周りが住宅地になり、事業しづらくなる	8	9.5	15	19.7	4	7.7	2	6.3	29	11.7
周りに建物が密集しており思うように事業を拡大できない	9	10.7	2	2.6	4	7.7	0	0.0	15	6.0
法令の規制で思うように事業できない	6	7.1	4	5.3	4	7.7	1	3.1	15	6.0
幹線道路の渋滞や道路の道幅が狭いなどの交通上不便	<b>16</b>	<b>19.0</b>	<b>15</b>	<b>19.7</b>	<b>10</b>	<b>19.2</b>	10	31.3	<b>51</b>	<b>20.6</b>
マイカー、自転車、歩行者が多く道路が使用しづらい	7	8.3	7	9.2	4	7.7	4	12.5	22	8.9
駐車スペースの不足	<b>16</b>	<b>19.0</b>	14	18.4	8	15.4	<b>11</b>	<b>34.4</b>	49	19.8
人口減少に伴う客足の減少	5	6.0	3	3.9	4	7.7	0	0.0	12	4.8
空き店舗、倉庫の増加による商業地としての魅力の低減	4	4.8	11	14.5	<b>10</b>	<b>19.2</b>	0	0.0	25	10.1
大型店舗の影響による客層・量の大きな変化	4	4.8	3	3.9	1	1.9	1	3.1	9	3.6
コンビニ等の利便施設の不足	9	10.7	4	5.3	<b>10</b>	<b>19.2</b>	7	21.9	30	12.1
特に問題はない	34	40.5	34	44.7	19	36.5	9	28.1	96	38.7
その他	3	3.6	2	2.6	0	0.0	4	12.5	9	3.6
不明・無回答	5	6.0	0	0.0	1	1.9	1	3.1	7	2.8
合計	84	100	76	100	52	100	32	100	244	100

※地域区分別集計値は全体より「地域区分不明」:4件を除く

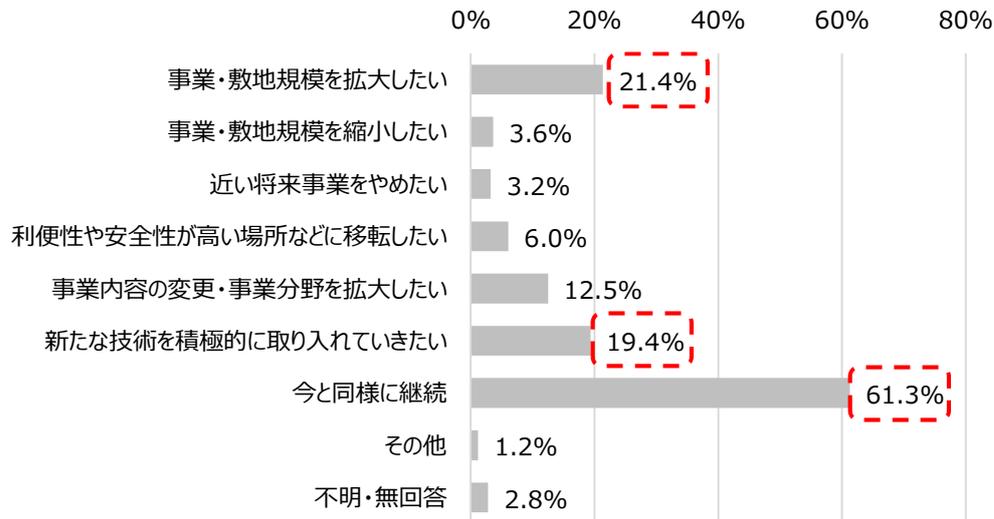
・「特に問題はない」「その他」「不明・無回答」を除く項目について、地域区分ごと及び市全体における回答割合の最大値を**太字**で、最小値を下線で表記。

【事業を営む上での問題×地域区分】



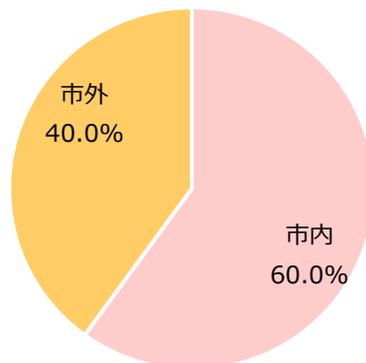
### ⑩-1 産業構造の変化に対する事業の展望 [複数回答]

今後事業をどうしたいかについては、61.3%が「今と同様に継続」と回答している。また、「事業・敷地規模を拡大したい」が 21.4%、「新たな技術を積極的に取り入れていきたい」が 19.4%で、約 20%の事業者が積極的な事業展望を示している。これに対して、「事業・敷地規模を縮小したい」や「近い将来事業をやめたい」といった消極的な事業展望を回答した事業者はそれぞれ 3%台と少なくなっている。



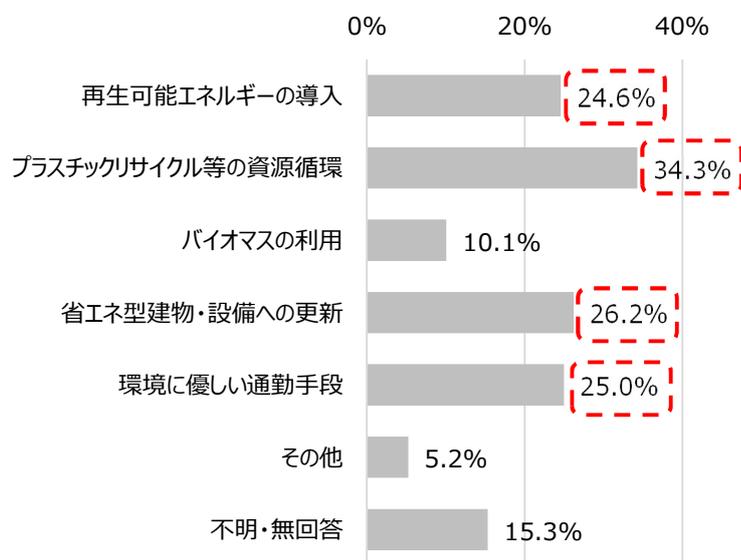
### ⑩-2 移転希望場所 [単一回答]

⑩-1 で、「利便性や安全性が高い場所などに移転したい」と回答した事業者（15 件）に、移転希望場所を尋ねたところ、60%（9 件）が「市内」を希望している。



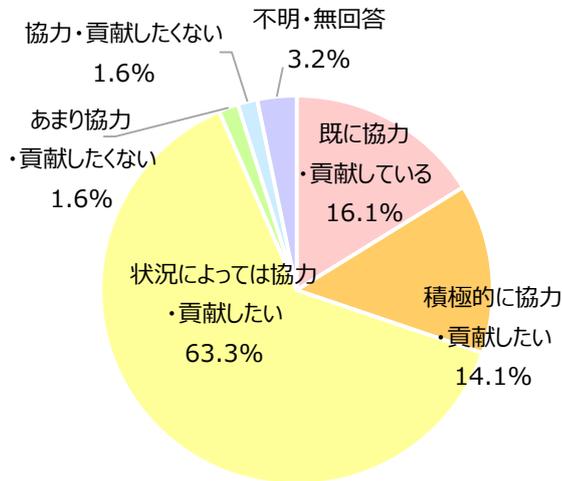
### ⑪ 脱炭素社会に向けた取組・その予定 [複数回答]

脱炭素や持続可能なまちづくりに向けて、既に取り組んでいるもの、あるいは今後取り組む予定のものについて回答してもらったところ、「プラスチックリサイクル等の資源循環」が34.3%と最も多く、次いで「省エネ型建物・設備への更新」26.2%、「環境に優しい通勤手段」25.0%、「再生可能エネルギーの導入」24.6%と続いている。



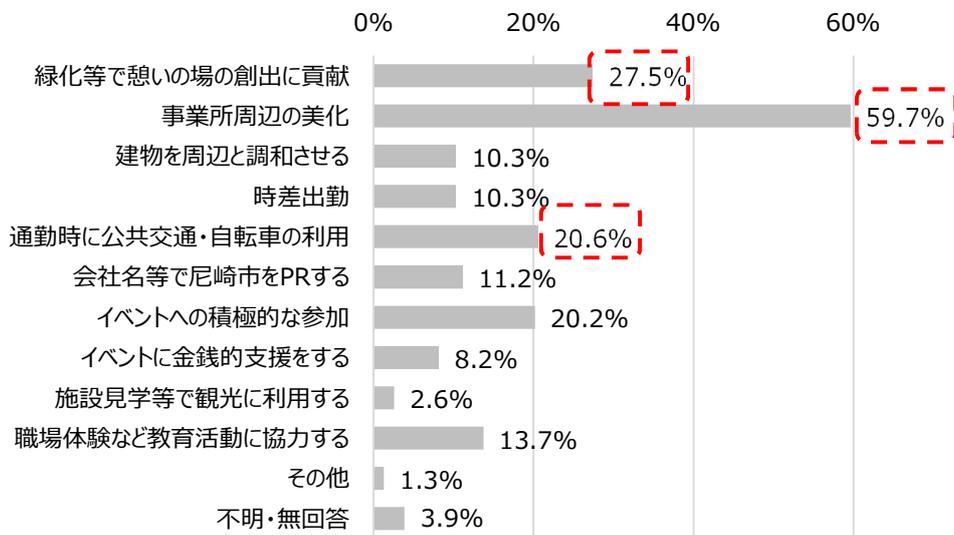
⑫-1 まちづくりへの貢献 [単一回答]

まちづくりへの協力については、「既に協力・貢献している」が 16.1%、「積極的に協力・貢献したい」が 14.1%で、合計すると約 30%の事業者がまちづくりに積極的な回答をしている。また最も回答が多かった「状況によっては協力・貢献したい」63.3%を合わせると、90%以上の事業者がまちづくりへの協力意向を示している。



⑫-2 まちづくりへの貢献の協力内容 [複数回答]

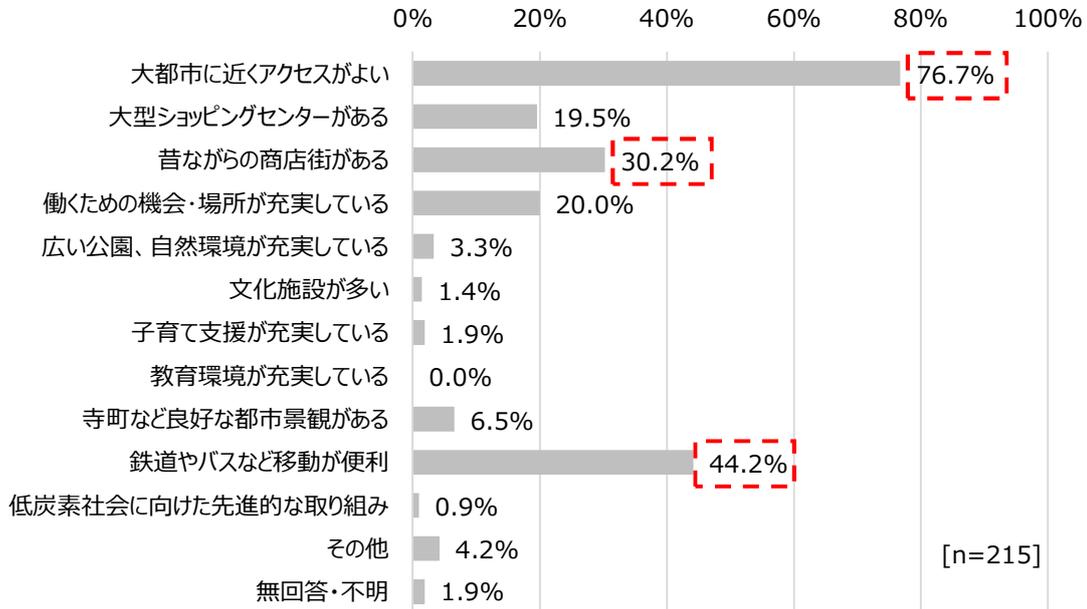
まちづくりへの協力意向のあった 233 件の事業者に、協力内容を尋ねたところ、「事業所周辺の美化」が 59.7%で最も多く、次いで「緑化等で憩いの場の創出に貢献」27.5%、「通勤時に公共交通・自転車の利用」20.6%と続いている。これらの項目及び(2) ⑪脱炭素社会に向けた取組で既に取り組んでいるもの、あるいは今後取り組む予定のものが一定数あることから、景観や脱炭素社会への取組について、民間事業者と協力して取り組んでいく必要性が高まっているものと考えられる。



### (3) 市外からの通勤者向けアンケート

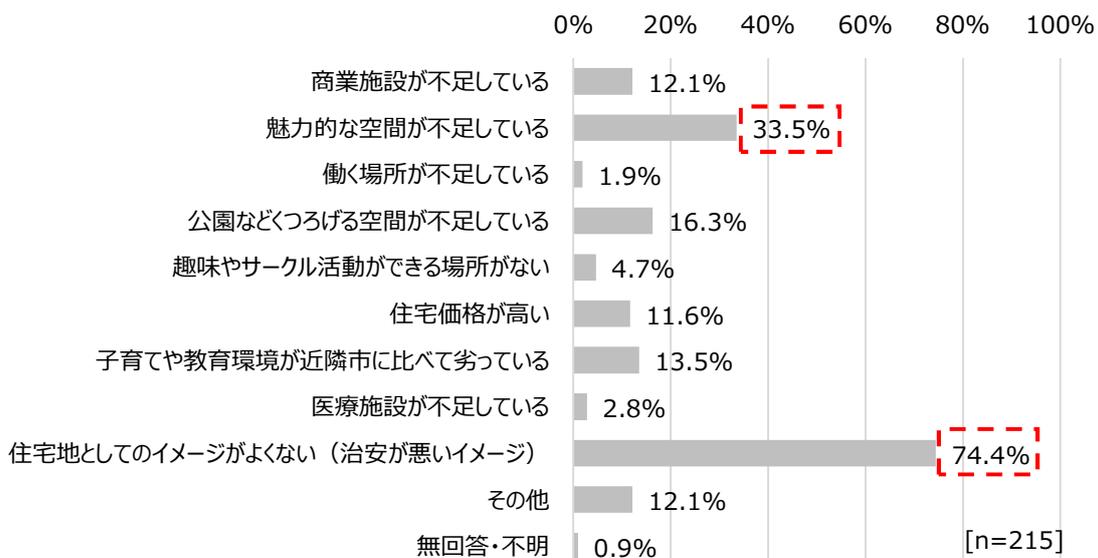
#### ① 尼崎市のまちの魅力は何だと思いますか[複数回答]

尼崎市のまちの魅力について、「大都市に近くアクセスがよい」が76.7%で最も高く、次いで「鉄道やバスなど移動が便利」44.2%、「昔ながらの商店街がある」30.2%の順で高くなっている。



#### ② 尼崎市のまちの課題は何だと思いますか[複数回答]

尼崎市のまちの課題について、「住宅地としてのイメージがよくない（治安が悪いイメージ）」が74.4%で最も高く、次いで「魅力的な空間が不足している」が33.5%で2番目に高い。

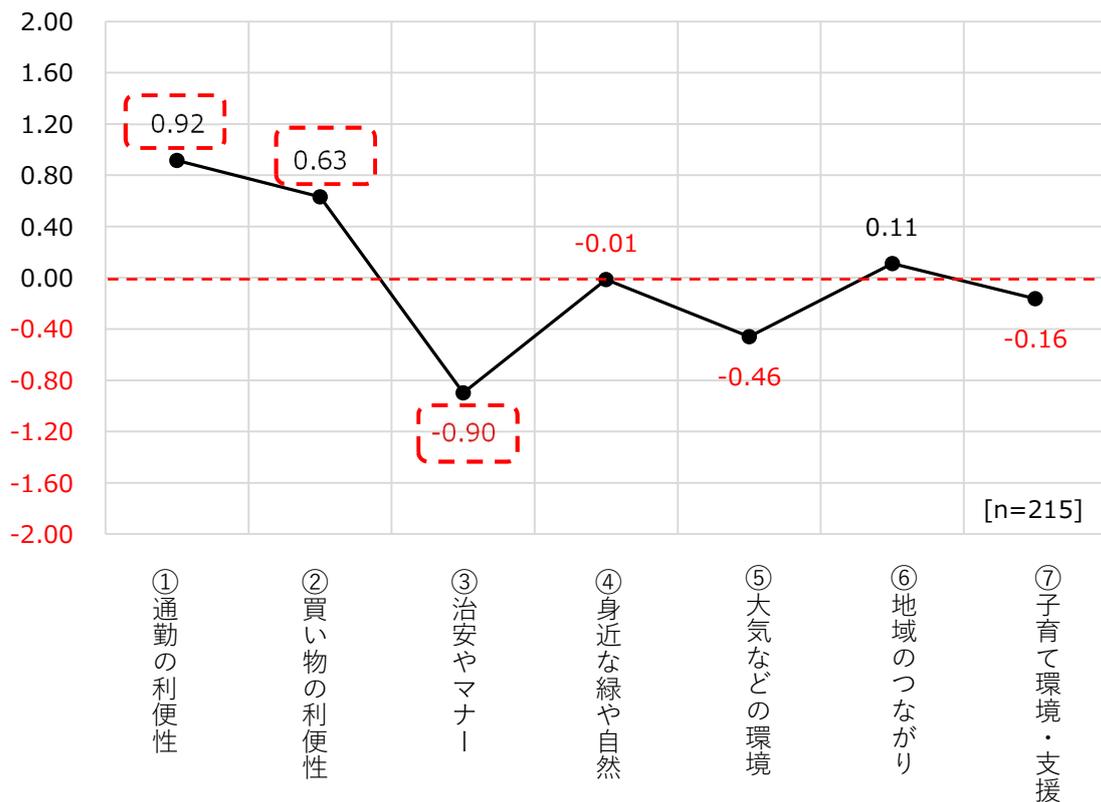


### ③ 尼崎市のまちづくりに関する満足度について

尼崎市のまちづくりに関する満足度について評点を見ると、「①通勤の利便性」が 0.92 ポイントで最も評点が高く、次いで「②買い物の利便性」が 0.63 ポイントで 2 番目に評点が高い。一方で、「③治安やマナー」が -0.90 ポイントで最も低い。

項目	満足 (件数)	やや満足 (件数)	どちら でもない (件数)	やや 不満 (件数)	不満 (件数)	全体 (件数)	評点
①通勤の利便性	77	77	33	22	6	215	<b>0.92</b>
②買い物の利便性	41	70	90	12	2	215	0.63
③治安やマナー	2	14	44	99	56	215	<b>-0.90</b>
④身近な緑や自然	7	46	108	45	9	215	-0.01
⑤大気などの環境	8	13	91	78	25	215	-0.46
⑥地域のつながり	5	29	167	13	1	215	0.11
⑦子育て環境・支援	1	9	169	26	10	215	-0.16

※①～⑦における評点の最大値を黒太字、最小値を赤太字で表記。

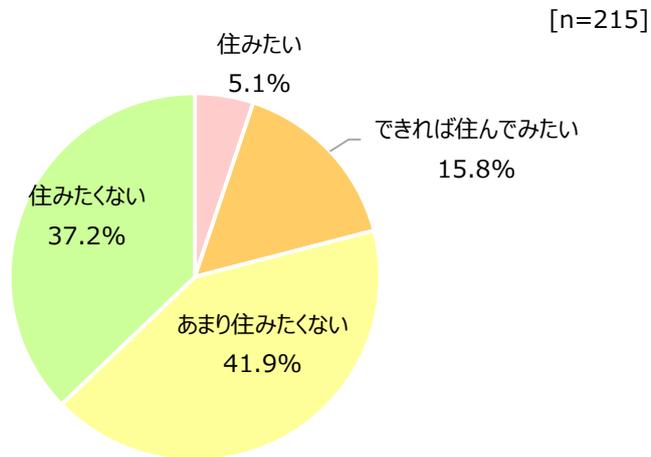


[評点について]

- ・満足：2点、やや満足：1点、どちらでもない：0点、やや不満：-1点、不満：-2点とした加重平均の値
- ・基準点は0点であり、値が正の場合、満足の方が多いといえる。無回答・不明は算出から除外。

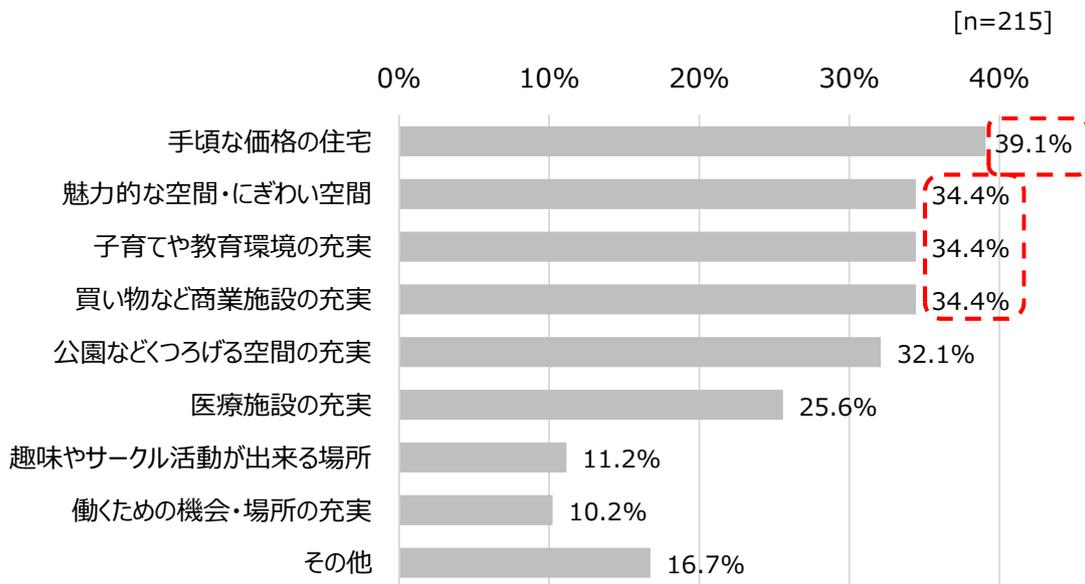
④ 今後、尼崎市での居留意向はありますか[単一回答]

今後の尼崎市での居留意向について、「あまり住みたくない」が41.9%、「住みたくない」が37.2%で、現時点で居留意向のない人が80%近くいる。



⑤ 尼崎市で居住するために必要なものは何ですか[単一回答]

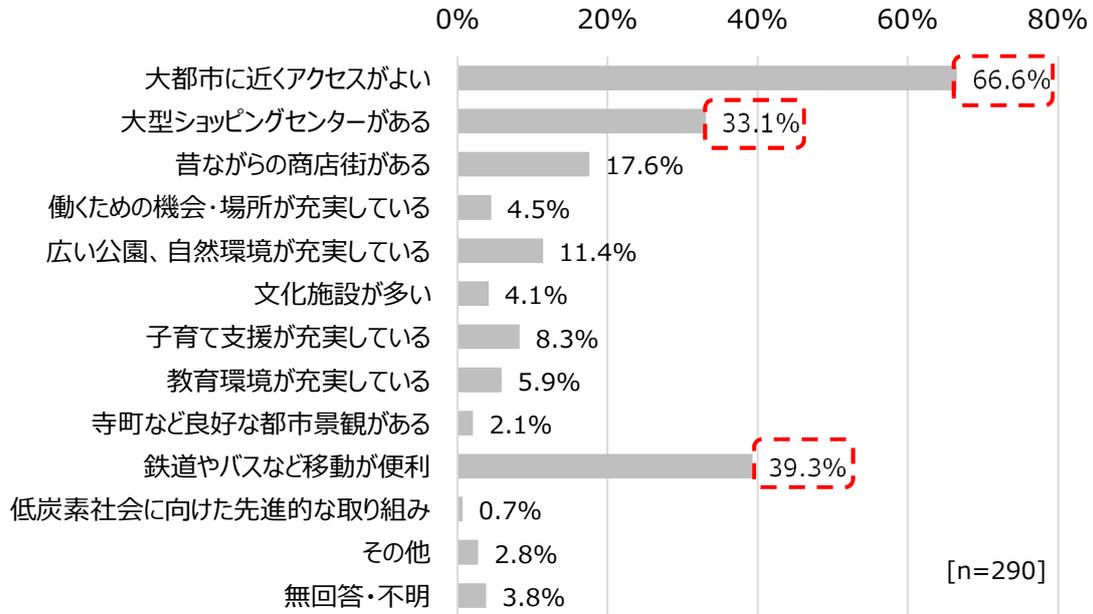
尼崎市で居住するために必要なものについて、「手頃な価格の住宅」が39.1%で最も高く、次いで「魅力的な空間・にぎわい空間」、「子育てや教育環境の充実」、「買い物など商業施設の充実」がともに34.4%である。



#### (4) 大学生向けアンケート

##### ① 尼崎市のまちの魅力は何だと思いますか[複数回答]

尼崎市のまちの魅力について、「大都市に近くアクセスがよい」が66.6%で最も高く、次いで「鉄道やバスなど移動が便利」39.3%、「大型ショッピングセンターがある」33.1%の順で高くなっている。

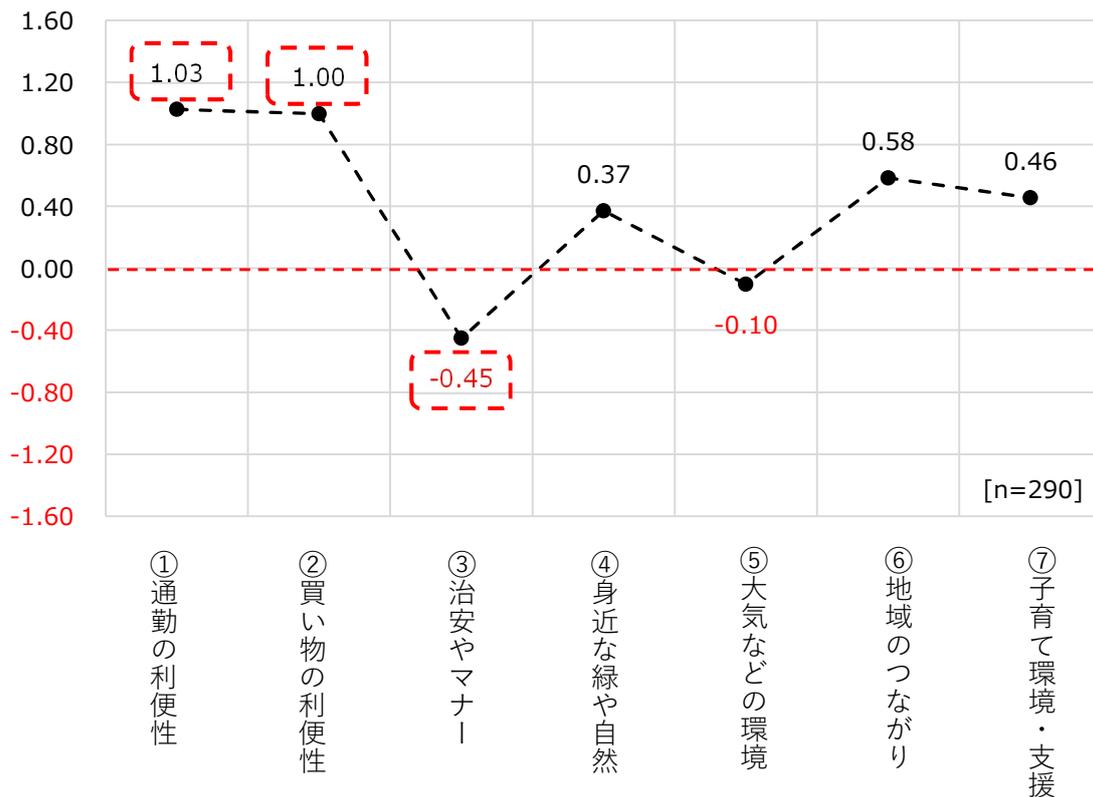


## ②-1 尼崎市のまちづくりに関する満足度[単一回答]

尼崎市のまちづくりに関する満足度の評点について、「①通勤の利便性」が 1.03 ポイントで最も評点が高く、次いで「②買い物の利便性」が 1.00 ポイントで 2 番目に評点が高くなっている。一方で、「③治安やマナー」が -0.45 ポイントで最も低くなっている。

項目	満足 (件数)	やや満足 (件数)	どちらでもない (件数)	やや不満 (件数)	不満 (件数)	分からない (件数)	全体 (件数)	評点
①通勤の利便性	104	110	39	14	10	13	290	<b>1.03</b>
②買い物の利便性	94	92	56	9	7	32	290	1.00
③治安やマナー	19	42	64	84	58	23	290	<b>-0.45</b>
④身近な緑や自然	31	89	97	29	13	31	290	0.37
⑤大気などの環境	19	47	103	63	24	34	290	<b>-0.10</b>
⑥地域のつながり	45	62	110	8	5	60	290	0.58
⑦子育て環境・支援	28	51	97	10	5	99	290	0.46

※①～⑦における評点の最大値を**黒太字**、最小値を**赤太字**で表記。

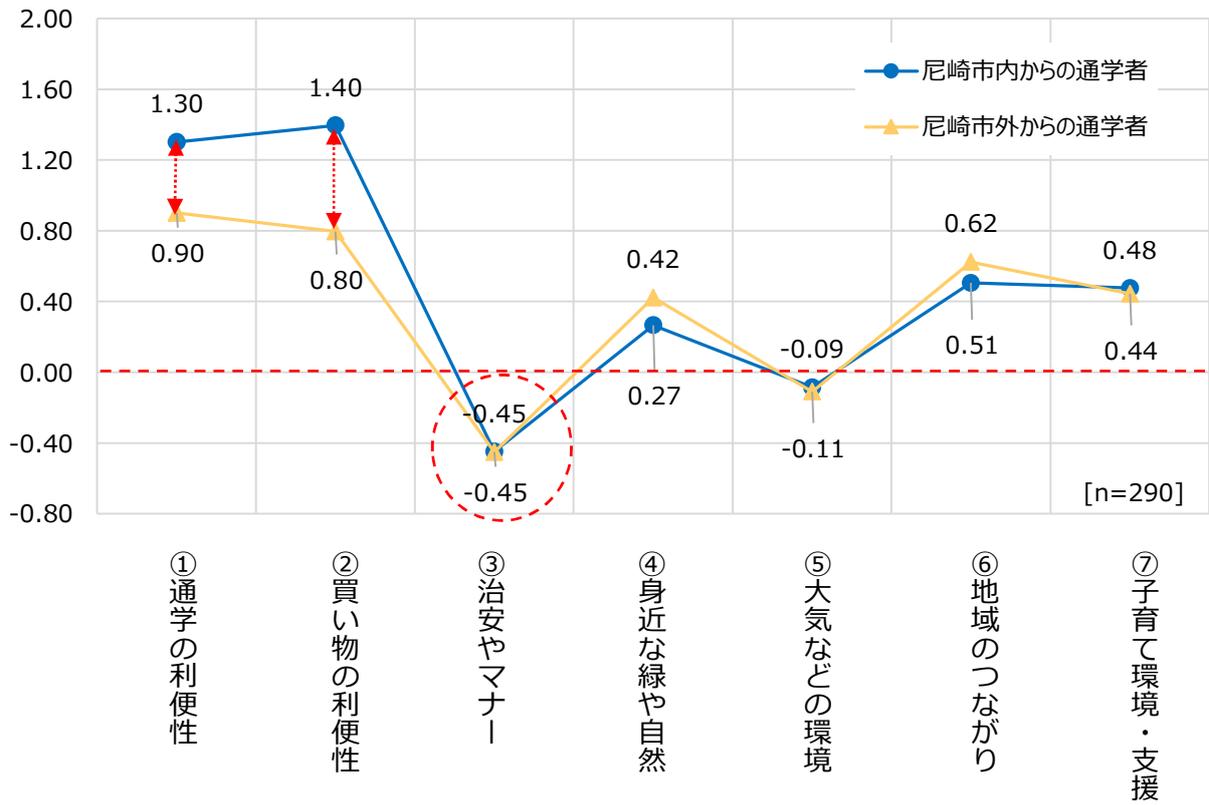


[評点について]

- ・満足：2点、やや満足：1点、どちらでもない：0点、やや不満：-1点、不満：-2点とした加重平均の値
- ・基準点は0点であり、値が正の場合、満足の方が多いいえる。「分からない」は算出から除外。

②-2 尼崎市のまちづくりに関する満足度×尼崎市内在・市外からの通学者

尼崎市のまちづくりに関する満足度の評点について、尼崎市内在・市外からの通学者別に比較すると、「①通学の利便性」「②買い物の利便性」については、尼崎市内在からの通学者の方がそれぞれ0.4ポイント、0.6ポイントずつ評点が高い。その他の項目については市内在・市外の通学者で大きな差は無く、特に「③治安やマナー」に関しては市内在・市外の通学者ともに-0.45ポイントで最も評価が低い。



【まちづくりに関する満足度×尼崎市内・市外からの通学者】

項目		尼崎市内からの通学者						合計	評点
		満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	分からない		
①通学の利便性	件数	46	28	7	2	3	0	86	1.30
	割合(%)	53.5	32.6	8.1	2.3	3.5	0.0	100	
②買い物の利便性	件数	51	24	7	2	2	0	86	1.40
	割合(%)	59.3	27.9	8.1	2.3	2.3	0.0	100	
③治安やマナー	件数	10	13	15	23	24	1	86	-0.45
	割合(%)	11.6	15.1	17.4	26.7	27.9	1.2	100	
④身近な緑や自然	件数	12	25	30	12	7	0	86	0.27
	割合(%)	14.0	29.1	34.9	14.0	8.1	0.0	100	
⑤大気などの環境	件数	8	14	34	15	11	4	86	-0.09
	割合(%)	9.3	16.3	39.5	17.4	12.8	4.7	100	
⑥地域のつながり	件数	14	20	42	3	2	5	86	0.51
	割合(%)	16.3	23.3	48.8	3.5	2.3	5.8	100	
⑦子育て環境・支援	件数	14	12	32	5	2	21	86	0.48
	割合(%)	16.3	14.0	37.2	5.8	2.3	24.4	100	

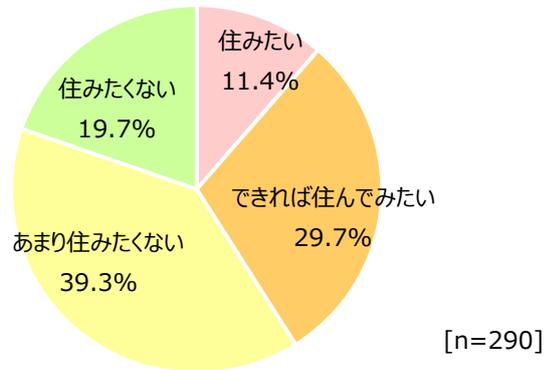
  

項目		尼崎市外からの通学者						合計	評点
		満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	分からない		
①通学の利便性	件数	58	82	32	12	7	13	204	0.90
	割合(%)	28.4	40.2	15.7	5.9	3.4	6.4	100	
②買い物の利便性	件数	43	68	49	7	5	32	204	0.80
	割合(%)	21.1	33.3	24.0	3.4	2.5	15.7	100	
③治安やマナー	件数	9	29	49	61	34	22	204	-0.45
	割合(%)	4.4	14.2	24.0	29.9	16.7	10.8	100	
④身近な緑や自然	件数	19	64	67	17	6	31	204	0.42
	割合(%)	9.3	31.4	32.8	8.3	2.9	15.2	100	
⑤大気などの環境	件数	11	33	69	48	13	30	204	-0.11
	割合(%)	5.4	16.2	33.8	23.5	6.4	14.7	100	
⑥地域のつながり	件数	31	42	68	5	3	55	204	0.62
	割合(%)	15.2	20.6	33.3	2.5	1.5	27.0	100	
⑦子育て環境・支援	件数	14	39	65	5	3	78	204	0.44
	割合(%)	6.9	19.1	31.9	2.5	1.5	38.2	100	

※①～⑦における評点の最大値を黒太字、最小値を赤太字で表記。

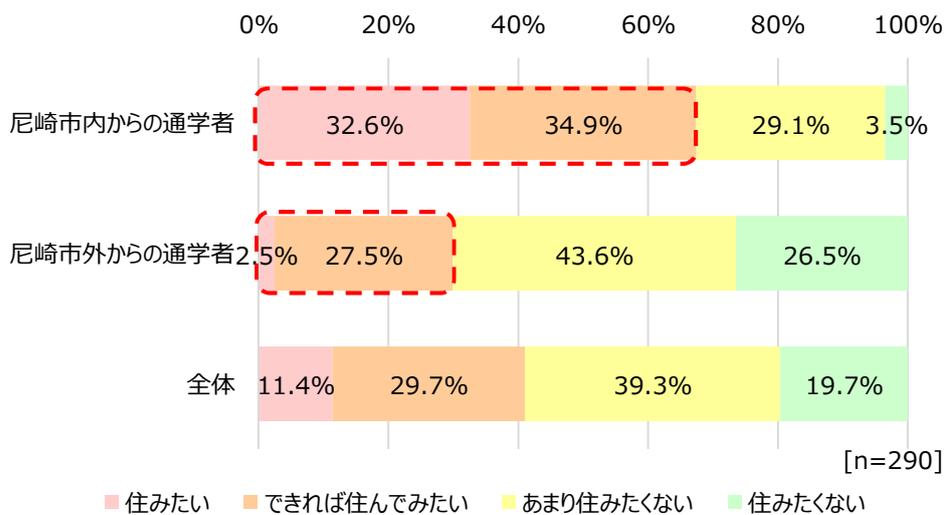
③-1 今後、尼崎市での居留意向はありますか[単一回答]

今後の尼崎市での居留意向について、「あまり住みたくない」が 39.3%、「住みたくない」が 19.7%で、半数以上の人が居留意向を持っていない。



③-2 今後の居留意向×尼崎市内・市外からの通学者[単一回答]

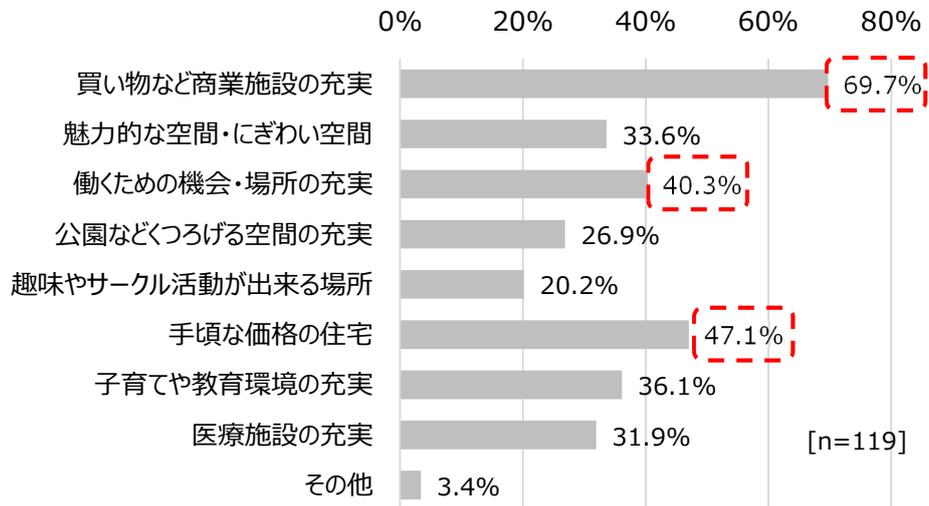
今後の尼崎市での居留意向を尼崎市内・市外からの通学者別に比較すると、「住みたい」「できれば住んでみたい」が市内からの通学者は合わせて 67.5%であったのに対して、市外からの通学者は 30.0%であり、大きな差が見られた。



④-1 将来尼崎市で”住み続けたい”と思うために必要だと考えられるものは何ですか[複数回答]

※ 居留意向がある方（119名）を対象とした設問

将来尼崎市で”住み続けたい”と思うために必要だと考えられるものは、「買い物など商業施設の充実」が69.7%で最も高く、次いで「手頃な価格の住宅」が47.1%、「働くための機会・場所の充実」が40.3%の順で高くなっている。



④-2 尼崎市で”住みたい”と思うために必要だと考えられるものは何ですか[複数回答]

※ 居留意向がない方（171名）を対象とした設問

尼崎市で”住みたい”と思うために必要だと考えられるものは、「魅力的な空間・にぎわい空間」が40.9%で最も高く、次いで「買い物など商業施設の充実」が27.5%、「公園などくつろげる空間の充実」が21.1%の順で高くなっている。

